

YAESU

VX-5

50/144/430MHz
TRIPLE-BAND
HEAVY DUTY FM TRANSCEIVER

取扱説明書

弊社製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

正しくお使いいただくために、この取扱説明書をよくお読みください。

また、お読みになった後は、大切に保管しておいてください。



安全上のご注意

3

お使いになる前に

8

基本的な使いかた

12

メモリーを使う

16

各種の便利な機能

20

特定の相手局との交信

32

リファレンス

34

付 録

46

本製品は日本国内専用機種です。

国外では使用できません。

本機を使用するためには、総務省のアマチュア無線局の免許が必要です。

また、アマチュア無線以外の通信には使用できません。

目次

お使いになる前に 8

同梱物を確認する	8
付属品を取り付ける	9
アンテナを取り付ける	9
ハンドストラップと	
ベルトクリップを取り付ける	9
電池パックを準備する	10
電池パックを取り付ける	10
電池パックを充電する	10
乾電池ケースの使いかた	11

基本的な使いかた 12

アマチュアバンドで送受信する	12
放送バンドを聞く	14
状態が変わらないようにロックする	15
送信出力を切り替える	15
スケルチのレベルを調節する	15

メモリーを使う 16

メモリーに書き込む	16
メモリーを呼び出す	17
メモリーを呼び出す	17
ホームチャンネルを呼び出す	17
メモリータグを使う	18
メモリータグをつける	18
メモリータグを表示する	18
メモリーグループを使う	19
メモリーグループに登録する	19
メモリーグループ内のメモリー	
チャンネルを呼び出す	19

各種の便利な機能 20

スキャン	20
VFOスキャン	20
プログラマブルメモリースキャン	21
メモリースキャン	22
特定のメモリーチャンネルのみを	
スキャンする	23
デュアルレシーブ	24
プライオリティメモリー	
チャンネルを優先的に受信する	24

VFOaとVFObを

デュアルレシーブする	24
スマートサーチ	25
スペアナを表示する	26
温度を表示する	26
電池の電圧を表示する	26
気圧を表示する	27
高度を表示する	27
アイコンで表示する	27
運用時間を表示する	28
電源がオフのときに	
温度などを表示させる	28
緊急を知らせる	28
自動的に電源をオン/オフする	29
ARTS機能を使う	30
DTMF機能を使う	31

特定の相手との交信 32

トーンスケルチまたはDCSを使う	32
ベル機能を使う	33

リファレンス 34

ホールドモード	34
ファンクションモード	36
セットモード	38
アイコン一覧	42
ディスプレイの表示と意味	43
ポケット通信に使うときは	44
クローン操作	45

付録 46

アマチュア無線局	
免許申請書類の書きかた	46
周波数の使用区分	49
オプション	50
使用できるオプション	50
気圧センサーユニットの取り付け	50
故障かな?と思ったら	51
索引	52
定格	54
キー操作早見表	55

安全上のご注意（必ずお読みください）

本機を安全に正しくお使いいただくために、必ずお読みください。

お客様または第三者の方が、この製品の誤使用・その他の不具合、あるいはこの製品の使用によって受けられた損害賠償については、法令上賠償責任が認められる場合を除き、当社は一切の責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

マークの種類と意味



危険

誤った使いかたをすると、人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。



警告

誤った使いかたをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



注意

誤った使いかたをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

図記号の種類と意味



行ってはならない禁止事項です。
たとえば、④は分解禁止を示しています。



必ず守っていただきたい注意事項です。
たとえば、⑤は電源プラグをコンセントから抜くことを示しています。

安全上のご注意（必ずお読みください）

危険



自動車やバイク等を運転しながら使用しないでください。
事故の原因になります。
運転者が使用するときは、必ず安全な場所に車を止めてから使用してください。



航空機内や病院内など、使用を禁止された区域では電源を切ってください。
電子機器や医療機器に影響を与える場合があります。



電池パックや乾電池ケースの端子をハンダ付けしたり、ショートさせたりしないでください。
火災・漏液・発熱・破裂・発火などの原因になります。
また、ネックレスやヘアピンなどと一緒に持ち運ばないでください。ショートするおそれがあります。



外傷、変形の著しい電池パックや乾電池ケースは使用しないでください。
火災・漏液・発熱・破裂・発火などの原因になります。



電池パックや乾電池ケースを指定機器以外の用途に使用しないでください。
火災・漏液・発熱・破裂・発火などの原因になります。



電池から漏れている液などに素手で触れないでください。
皮膚に付着したり、目に入ると化学火傷を起こすおそれがあります。
この場合、直ちに医師の診断を受けてください。



火のそばや炎天下など、高温の場所で充電・使用・放置しないでください。

安全上のご注意（必ずお読みください）

⚠ 警告



分解や改造をしないでください。

無線機を勝手に分解改造することは違法です。また、ケガ・漏液・感電・火災・故障の原因になります。



本機は日常生活防水 "JIS保護等級4種防沫型相当" ですが、濡れたときにはすぐに乾いた布などで拭いてください。

濡れたまま放置すると、性能や寿命を低下させたり、または感電する原因になります。



当社指定以外のACアダプターを使用しないでください。

火災や故障の原因になります。



無線機・乾電池ケースや電池パック、およびACアダプターから煙が出ていたり、変な臭いがするときは、電源をオフにして、乾電池ケースや電池パックを取り外し、電源コードをコンセントから抜いてください。

火災・漏液・発熱・破損・発火・故障の原因になります。お買い上げの販売店または当社営業所/サービス窓口にご連絡ください。



乾電池ケースや電池パックの端子はいつもきれいにしておいてください。

火災・漏液・発熱・破裂・発火などの原因になります。



電池パックの充電が所定の時間を超えても完了しない場合には、直ちに電源プラグをコンセントから抜いてください。

火災・漏液・発熱・破裂・発火などの原因になります。

⚠ 注意



当社指定外のオプションを使用しないでください。

ケガの原因になります。また、本体の故障や破損の原因にもなります。



送信中は、できるだけ身体からアンテナを離してください。

長時間身体に電磁波を受けると、身体に悪影響を及ぼす場合があります。



強い衝撃を加えたり、投げつけたりしないでください。

故障の原因になります。



磁気カードなどを無線機に近づけないでください。

キャッシュカードやフロッピーディスクなどの内容が消去されることがあります。



イヤピースマイクロホン、ヘッドセット、イヤホンなどを使用するときは、音量を大きくしないでください。

聴力障害の原因になることがあります。

安全にお使いいただくために

安全上のご注意（必ずお読みください）

注意



アンテナを持って、本体を振り回したり投げたりしないでください。
本人や他人に当たり、ケガの原因になります。また、本体の故障や破損の原因にもなります。



人の多い場所では使用しないでください。
アンテナが他人に当たり、ケガの原因になります。



振動・ホコリ・湿気の多い場所で使用しないでください。
故障の原因になります。



直射日光の当たる場所や熱器具の近くに放置しないでください。
変形や変色の原因になります。



小さなお子さまの手の届かない場所に保管してください。
ケガなどの原因になります。



電池パックは 5℃～35℃の温度範囲内で充電してください。
この温度範囲以外で充電すると、漏液や発熱したり、電池の性能や寿命を低下させる原因になります。



付属のACアダプターで当社指定の電池パック以外は充電しないでください。
火災や故障の原因になります。



使用済みの電池/パックや乾電池は、端子にテープなどを貼って絶縁してから破棄してください。



引火性のガスの発生する場所でACアダプターを使用しないでください。
発火事故の原因になることがあります。



ACアダプターを使用しないときは、コンセントから抜いてください。



電源コードの上に重い物を載せないでください。
電源コードが傷つき、火災や感電の原因になります。



ACアダプターをコンセントから外すときは、必ずACアダプター本体を持ってください。
電源コードを引っ張るとコードが傷つき、火災や感電の原因になります。



ハンドストラップやベルトクリップの取り付けは確実に行ってください。
間違った取り付けかたは、落下によるケガや本体の破損などの原因になります。



シンナーやベンジンなどでケースを拭かないでください。
変形や変色などの原因になります。
ケースが汚れた場合には、中性洗剤を湿した布で軽く拭いて汚れを落とし、乾いた布で拭き取ってください。

電波を発射する前に

アマチュア局は、自局の発射する電波が、テレビやラジオの受信に障害を与えたり、障害を受けているとの連絡を受けた場合は、ただちに電波の発射を中止して障害の有無や程度を確認してください。

《参考》無線局運用規則 第9章 アマチュア局の運用

第258条 アマチュア局は、自局の発射する電波が他の無線局の運用又は放送の受信に支障を与え、若くは、与える虞があるときは、すみやかに当該周波数による電波の発射を中止しなければならない。(以下省略)

障害が自局の電波によるものと確認された場合、無線機、アンテナ系を点検し障害に応じてお近くの営業所／サービス、またはお買い上げの販売店などに相談するなどして、適切な処置を行ってください。

受信側に原因がある場合、障害対策は単に技術的な問題に止まらず、ご近所付き合いなどで、むずかしい場合もあります。

日本アマチュア無線機器工業会(JAIA)及び(社)日本アマチュア無線連盟(JARL)では、電波障害の対策と防止についての相談窓口を開設しておりますので、対策にお困りの場合はご相談ください。

日本アマチュア無線機器工業会
(JAIA)

〒170-0002 東京都豊島区巣鴨1-10-5
第2川端ビル

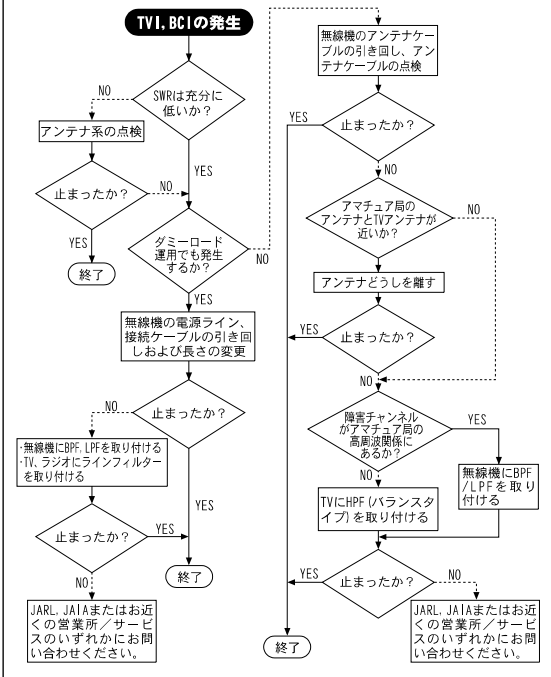
TEL 03-3944-8611

社団法人日本アマチュア無線連盟
(JARL)

〒170-8073 東京都豊島区巣鴨1-14-5

TEL 03-5395-3111

電波障害(TVI, BCI)対策フローチャート (例)



お使いになる前に

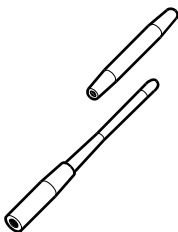
同梱物を確認する

ご使用になる前に、同梱物がそろっていることを確認してください。

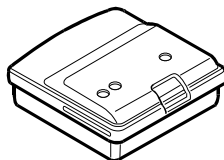
VX-5本体



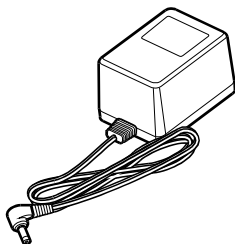
アンテナ



電池パック (FNB-58LI)



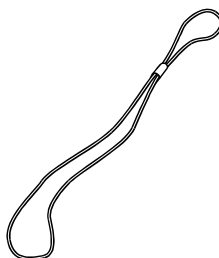
ACアダプター (NC-72A)



ベルトクリップ



ハンドストラップ



- 取扱説明書(本書)
- 保証書
- ご愛用者カード*
- JARL入会申込書

● 保証書にお買い上げの販売店名とお買い上げ日が記入されていることを確認してください。

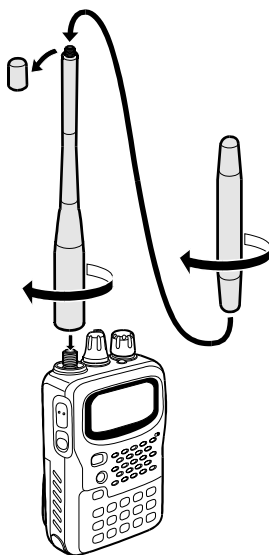
○ 不足品がある場合には、お買い上げの販売店にお申し出ください。

付属品を取り付ける

アンテナを取り付ける

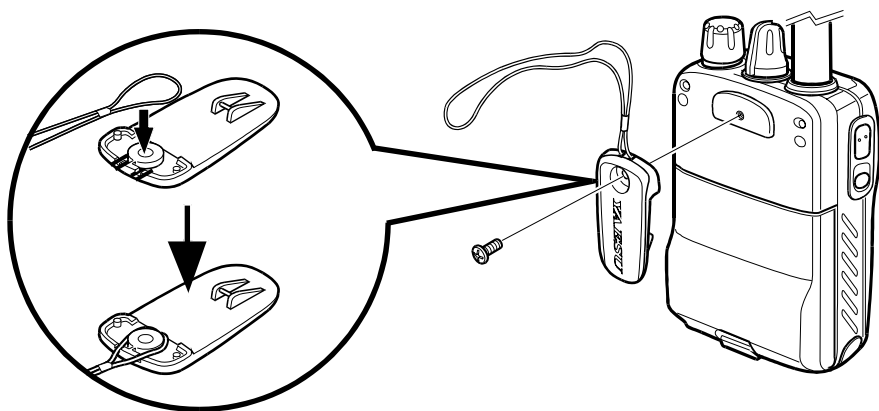
アンテナのコネクターに近い太い部分を持って、時計方向に回しながら取り付けます。50MHz帯で送受信する場合や、AMラジオや短波帯の放送を受信する場合は、キャップを外して延長エレメントを取り付けます。

- アンテナの取り付け/取り外し時には、アンテナの上部を持って回さないでください。アンテナの内部で断線する場合があります。
 - アンテナを取り付けられない状態で送信しないでください。送信回路が損傷する場合があります。
 - 付属以外のアンテナを使用する場合や、外部のアンテナを接続する場合には、SWRが1.5以下に調整されたものを使用してください。
- 延長エレメントを取り付けた状態でも、144MHz/430MHz帯での送受信やTV放送などの受信をすることができます。



お使いになる前に

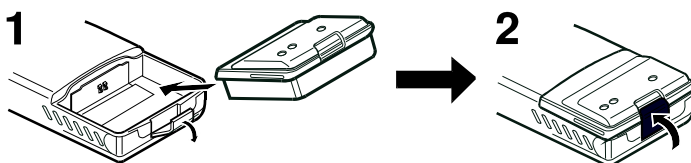
ハンドストラップとベルトクリップを取り付ける



- ベルトクリップの固定には必ず付属のビスを使用してください。他のビスを使用すると、しっかり固定できなかったり、本機の内部に損傷を与える場合があります。
- ベルトクリップを使用せず、ビスのみを本機に取り付けしないで下さい。本機の内部に損傷を与える場合があります。

電池パックを準備する

電池パックを取り付ける



○ お買い上げ直後または長期間使用していない電池パックは、充電してからお使いください。

電池パックを充電する

付属のACアダプター (NC-72A) を、VX-5のEXT DC端子に接続します。充電中は「ジューデンチュウ」が表示され、充電が終わると表示が「ジューデンカンリョウ」に変わり、TX/BUSYランプがオレンジ色に点灯します。約5時間で充電は完了します。

● 送信中は充電できません。受信中（電源がオンのとき）は充電されますが、「ジューデンチュウ」や「ジューデンカンリョウ」は表示されません。

● 付属のACアダプターでは送信することはできません。

● 7時間経過しても充電が完了しない場合は、「ジューデンデキマセン」が・表示され、充電を終了します。この場合は、お買い上げの販売店またはお近くの営業所/サービスにご連絡下さい。

○ 使用中にACアダプターが発熱する場合がありますが故障ではありません。

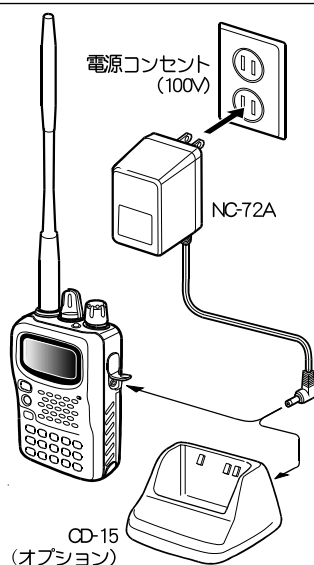
○ 電池パックが消耗するとが点滅します。すみやかに充電してください。

○ 電池パックにはリチウムイオン電池を使用しており、正しく充電すると約300回使用できます。

○ オプションの急速充電器 (CD-15) を使うと、約2時間半で充電できます。なお、このときには「ジューデンチュウ」や「ジューデンカンリョウ」は表示されませんが、CD-15のランプで充電状態を知ることができます（赤色に点灯：充電中、緑色に点灯：充電完了）。

○ シガープラグ付き外部電源ケーブル (E-DC-5B) および外部電源ケーブル (E-DC-6) を使用すると、充電中に送信することもできます。なお、外部電源ケーブル (E-DC-6) を使用するときには、次の点にご注意ください。

- ・ 電源電圧が12V～16Vの範囲であること。
- ・ 電流容量が2A以上の電源を使用すること。
- ・ 外部電源ケーブル (E-DC-6) の白黒線をプラス (+)、黒線を (-) に接続すること。



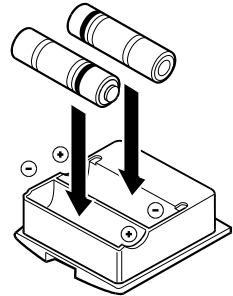
電池パックを準備する

- ▲ 当社指定のACアダプター以外は使用しないでください。火災や故障の原因になります。
- ▲ 濡れた手でACアダプターに触れないでください。感電の原因になります。
- ▲ ACアダプターから煙や異臭が出ている場合には、ACアダプターをコンセントおよび本機から抜いてください。
- ▲ 充電は、周囲の温度が+5℃～+35℃の場所で行ってください。
- ▲ とくどき、電池パックの端子や電極を乾いた布や綿棒で拭いてください。端子や電極が汚れていると、接触不良になって正しく充電できないばかりではなく、発熱や破裂などの原因になります。

乾電池ケースの使いかた

オプションの乾電池ケース(FBA-23)を用意しておくと、単三形アルカリ電池2本で使用することができます。ただしこの場合、送信出力は0.3Wになります。

- 長時間使用しない場合は、乾電池ケースから乾電池を取り外しておいてください。
- 使用できる乾電池はアルカリ乾電池だけです。マンガン乾電池は使用できません。
- 乾電池を使用しているときの送信出力は0.3Wで、変更できません。
- 周囲温度により、送信出力は変化します。
- 乾電池が消耗すると  が点滅します。
- ▲ とくどき乾電池ケースの端子や電極を乾いた布や綿棒で拭いてください。端子や電極が汚れていると、接触不良になって正しく使用できないばかりではなく、発熱や破裂などの原因になります。



お使いになる前に

■使用時間の目安

フル充電した電池パックおよび乾電池で使用できる時間の目安は次のとおりです。

使用バンド		電池パック	乾電池	アイコン表示
アマチュアバンド	50MHz帯	約6.5時間	約7.5時間	電池パック使用時  : ほぼ一杯に充電されています。  : まだ使えます。  : 残りわずかです。  : 空になりました。  : すぐに充電してください。 乾電池使用時  : まだ使えます。  : アルカリ乾電池を交換してください。  (点滅)
	144MHz帯	約6時間	約7時間	
	430MHz帯	約5.5時間	約6時間	
短波帯、AMラジオ放送帯、FMラジオ放送帯、TV放送帯		約15時間	約9時間	

上記の目安は次の使いかたの場合です。

- アマチュアバンド : ハイパワーで送信6秒、受信6秒、待ち受け48秒の繰り返し
- その他のバンド : 連続受信

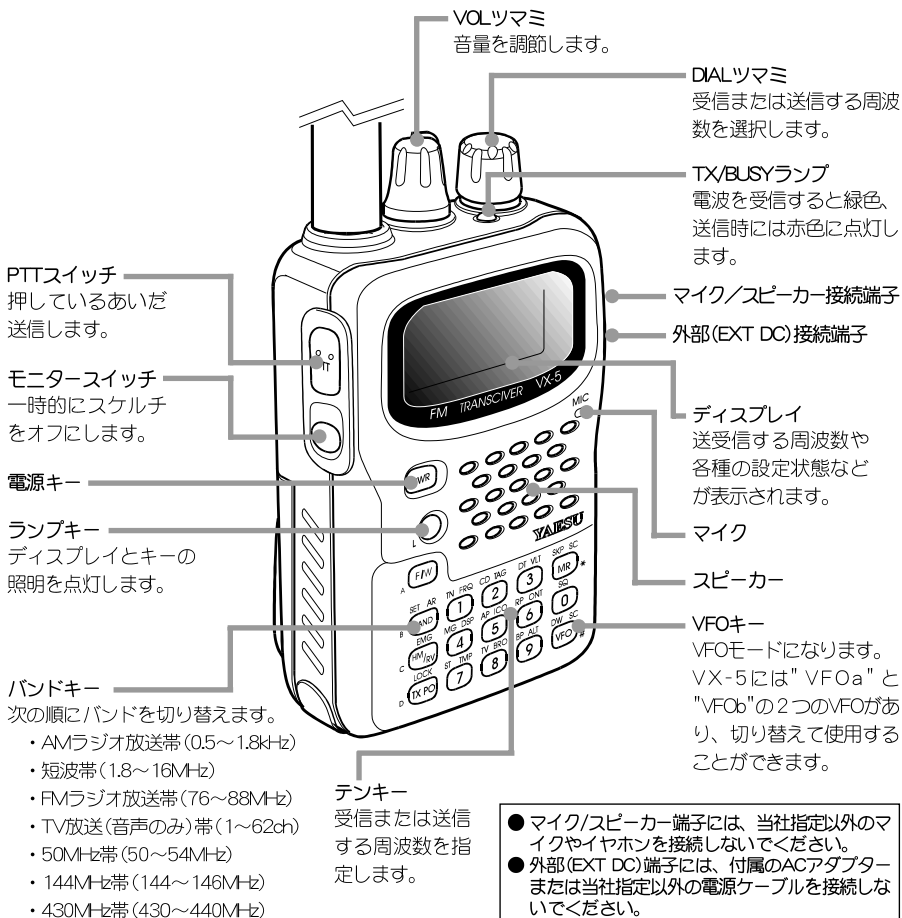
- 上記の使用時間は目安です。実際に使用できる時間は、使いかたや温度などによって異なります。

基本的な使いかた

アマチュアバンドで送受信する

ディスプレイに表示が出るまで[PWR] (電源) キーを押します。表示が出たらキーをはなします。電源がオンになり、受信状態になります。

基本的な使いかた



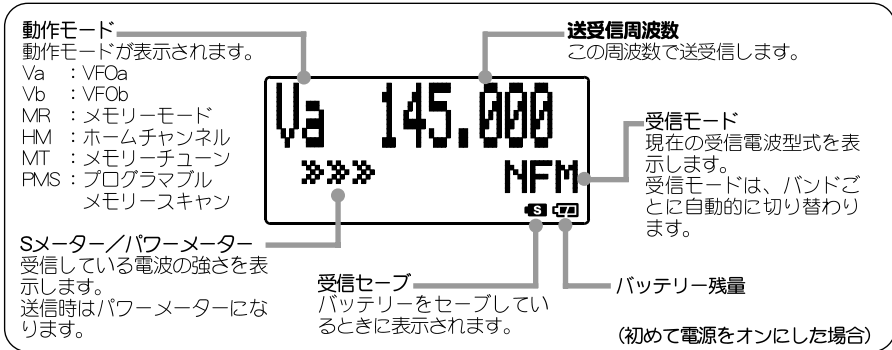
▲ 航空機の中や病院など、無線機の使用が禁止されている場所では電源をオフにしてください。

▲ 自動車などを運転中は使用しないでください。

▲ VX-5は日常生活防水 "JIS保護等級4種防沫型相当" です。ただし、本機が濡れたときはすぐに乾いた布などで拭いてください。

○ 音量を調節するときにスピーカーから何も聞こえていない場合は、モニタースイッチを押してザーという雑音を聞きながらVOLツマミを回してください。

○ DIALツマミやテンキーで周波数を直接選択できる状態をVFOモードといいます。



○ レピーターの周波数 (439.00~440.00MHz) を選択すると、ARS機能によって自動的にレピーターを使用できる状態になります。

▲ イヤホンを使用する場合には、電源をオンにする前に音量を最低にしてください。

■送受信周波数を設定するときは

DIALツマミまたはテンキーで送受信周波数を設定できます。

DIALツマミを右に回すと周波数は高くなり、左に回すと低くなります。

テンキーで選択する場合は、100MHzの位から6桁の数字で指定します。

《例》 51.52MHzの場合：

ただし、右の桁がすべて "0" の場合は次のように省略できます。

《例》 433.00MHzの場合：

■電源をオフにするときは

(電源) キーを押し続けます。電源がオフになります。

○ セットモード45の設定により、電源がオフのときにディスプレイに温度、気圧、高度を表示できます。

■リセットするときは

、、 の3つのキーを押しながら電源をオンにします。

"ALL RESET PUSH F KEY" の表示が出ましたら、 キーを押すと、すべての設定やメモリーをクリアしてお買い上げ時の状態に戻すことができます(オールリセット)。

キー以外のキーを押せば、リセットを中止することができます。

■送信時の注意事項

- 周波数の使用区分を守って交信してください。
- アンテナを取り付けない状態で送信しないでください。送信回路が損傷する場合があります。
- 送信すると本機は発熱します。
- 長時間送信し続けると、過熱防止回路が作動して送信出力が下がることがあります。さらに送信を続けると、過熱による故障を防ぐために、送信が中止されて受信状態になります。過熱防止回路が作動して受信状態になったときには、電源をオフまたは受信状態のまま、温度が下がるまでお待ちください。
- 無線中継所などの近くで送信すると、業務用の通信に妨害を与える場合があります。

放送バンドを聞く

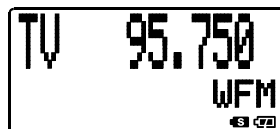
[BAND]キーを押してAM/FMラジオ放送帯やTV放送帯などを選択すると、ラジオ放送やTV放送の音声を聞くことができます。

○ AMラジオ放送局の周波数をテンキーで選択するときには、正しい周波数を指定してください。周波数プラン(9kHzステップ)からはずれているとキー入力できません。

■TV放送をチャンネル番号で選択するには

1 [F/W]キーを押し、続いて[8]キーを押します。

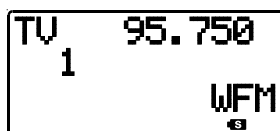
TV専用メモリーが呼び出されます。



2 [4]キーを1秒以上押します。

チャンネル番号が表示され、DIALツマミを回すことで、TV放送の選択をチャンネルで行うことができます。

(表示例は、東京地方のNHK総合：1チャンネルです)



3 TV放送の受信を終了するときには、[VFO]キーを押します。

VFOの周波数が呼び出されます。

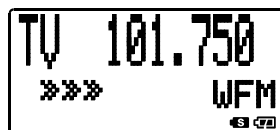
次の操作を行うと、いまいる場所で受信できるTV放送だけを選択できるようになります。

1 [F/W]キーを押し、続いて[8]キーを押します。

TV専用メモリーが呼び出されます。

2 [MR]キーを1秒以上押します。

TV放送のすべてのチャンネルをスキャンして自動的にスキャンは停止し、受信信号のなかったチャンネルは表示しないように設定されます。



3 上記の方法でTV放送の選択を行うと、受信できるTV放送だけを選択することができます。

○ 放送のないチャンネルが表示される場合は、セットモード2でスケルチレベルを上げてからもう一度上記の操作を行ってください。

○ TV放送のチャンネルを選択しているときに、[F/W]キーを1秒以上押し、続いて[MR]キーを押すと、そのチャンネルスキップさせることができます。

○ 受信する地域が変わった場合は、上記の操作を繰り返して設定しなおしてください。

状態が変わらないようにロックする

誤って周波数などが変わってしまったりしないように、キーをロックできます。

[F/W] キーを押し、続いて **[TX P0]** キーを押します。

ロックを解除するときは、もう一度 **[F/W]** キーを押し、続いて **[TX P0]** キーを押します。

ロックされているときには、"L" がディスプレイに表示されます。



- 上記の操作でロックしても、**[PWR]** (電源) キー、**[F/W]** キー、**[LAMP]** キーおよびモニタースイッチは使用できます。
- セットモード37の設定により、各キー、DIALツマミ、PTTスイッチをロックするように設定することもできます。

送信出力を切り替える

VX-5の送信出力は最大5Wですが、距離の近い相手と交信するときや、バッテリーの消耗を抑えるときには、送信出力を下げるすることができます。

電源の種類ごとの送信出力は右のとおりです。
※電池/パック使用時には、430MHz帯では4.5Wとなります。

電池の種類	ハイパワー	(L3)	(L2)	(L1)
電池パック	5W※	LIII	LII	LI
外部電源(DC13.8V)		2.5W	1W	0.3W
乾電池ケース (アルカリ乾電池)	0.3W			

[TX P0] キーを押します。

[TX P0] キーを押すたびに、送信出力が切り替わり、送信出力に応じたアイコンがディスプレイに表示されます。



- バッテリーの消耗を抑えるためにも、必要最低限の送信出力で使用するください。
- 送信出力を下げているときでも、**[F/W]** キーを押してからPTTスイッチを押すとハイパワーで送信できます(一時ハイパワー送信)。
- お買い上げ時の状態では「ハイパワー」に設定されています。
- 乾電池ケース(アルカリ乾電池)を使用しているときには、送信出力は切り替えられません(0.3Wのみ)。

スケルチのレベルを調節する

1 **[F/W]** キーを押し、続いて **[0]** キーを押します。

2 DIALツマミを回してスケルチのレベルを設定します。

3 **[0]** キーを押します。



- VX-5は、相-FMのスケルチレベルとワイドFMのスケルチレベルを個別に設定することができます。受信モードがNFM/AMのときには "01 スケルチ レベル" が、WFMのときには "02 ワイド スケルチ" が呼び出されます。

メモリーを使う

メモリーに書き込む

VX-5には220チャンネル(メモリー番号1~220)のメモリーがあります。

1 メモリーする周波数を選択します。

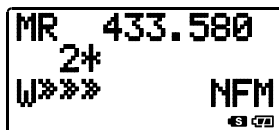
DIALツマミまたはテンキーで周波数を選択します。



2 **[F/W]**キーを1秒以上押します。

書き込みモードになり、ディスプレイに "W" が表示されます。

また、何もメモリーされていない最も小さい番号のメモリーチャンネルが "*" とともに表示されます。



3 メモリーチャンネル番号を指定して書き込む場合は、DIALツマミを回して希望するメモリーチャンネル番号を選択します。

4 **[F/W]**キーを押してメモリー書き込みを完了します。

もとの周波数表示に戻ります。

- お買い上げ時には、メモリーチャンネル1には145.000MHzが登録されています。
- TV放送の周波数は、上記の220チャンネルのメモリーとは異なるTV専用メモリーにあらかじめ登録されています。
- すでに登録されているメモリーチャンネルに再度書き込み操作を行うと、新しい周波数に書き換えることができます。
- 1つのメモリーチャンネルに異なる受信周波数と送信周波数を登録することもできます。
 - 1 受信周波数をメモリーします。
 - 2 VFOモードで送信周波数を選択します。
 - 3 **[F/W]**キーを1秒以上押します。
 - 4 DIALツマミを回して、受信周波数をメモリーしたチャンネル番号を選択します。
 - 5 PTTスイッチを押しながら**[F/W]**キーを押します。異なる受信周波数と送信周波数を登録したメモリーチャンネルは、メモリーを呼び出したときにディスプレイに"**■**"が表示されます。
- メモリーした内容は、誤操作や静電気または電氣的雑音を受けたときに消失する場合があります。また、故障や修理の際にも消失する場合がありますので、メモリーした内容は、必ず紙などに控えておくようにしてください。

■メモリーを消すときは

1 **[F/W]**キーを1秒以上押します。

2 DIALツマミを回して、消したいメモリーチャンネルを選択します。

3 **[MR]**キーを押して消去を完了します。

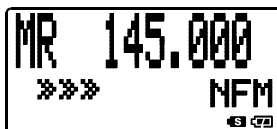
- 消したメモリーチャンネルに周波数などを新たに書き込む前であれば、上記のメモリー消去の操作をもう一度行うことによって消去した内容を復活できます。
- メモリーチャンネル1は消去できません。

メモリーを呼び出す

メモリーを呼び出す

1 [MR]キーを押します。

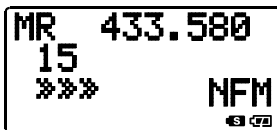
最後に使用したメモリーチャンネルが呼び出されます。



2 DIALツマミを回して呼び出すメモリーチャンネルを選択します。

テンキーでメモリーチャンネル番号を入力して[MR]キーを押すことによって呼び出すこともできます。(例: [1][5][MR])

- [4]キーを1秒以上押すと、メモリーチャンネル番号を表示できます。もう一度[4]キーを1秒以上押すと、大きな文字の表示に戻ります。
- DIALツマミを回したときには、周波数書き込まれていないメモリーチャンネルはスキップされます。
- [MR]キーを押すと「MR」の表示が「MT」(メモリーチューン)に変わり、メモリーチャンネルの周波数を一時的に変更できます。もう一度[MR]キーを押すと、もとの周波数に戻ります(「MR」表示に戻ります)。
- [VFO]キーを押すと、VFOモードに戻り、メモリーモードに移行する前に選択していた周波数になります。
- [F/W]キーを1秒以上押し、続いて[VFO]キーを押すと、周波数は変わらずにVFOモードに戻ります(メモリーVFO転送)。
- メモリーモードだけで運用することもできます。[MR]キーを押しながら電源をオンにすると、メモリーモードだけを使える状態(メモリーオンリーモード)になります。もう一度[MR]キーを押しながら電源をオンにすると、メモリーオンリーモードは解除されます。



メモリーを使う

ホームチャンネルを呼び出す

[HM/RV]キーを押します。

[HM/RV]キーを押したときに選択されていたバンドのホームチャンネル(右下表)が呼び出されます。



- 16ページのメモリーに書き込む操作で、手順4のかわりに[HM/RV]キーを押すとホームチャンネルの周波数を変更できます(手順3は不要)。
- DIALツマミを回すかテンキーで周波数を選択するとVFOモードに戻ります。また、[VFO]キーを押してVFOモードに戻すこともできます。この場合、ホームチャンネルを呼び出す前に選択していた周波数になります。
- [MR]キーを押すとメモリーモードに移行します。この場合、ホームチャンネルを呼び出す前に選択していたメモリーチャンネルが呼び出されます。

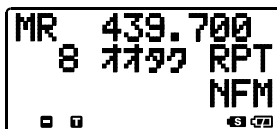
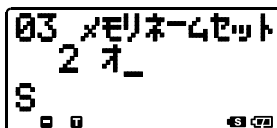
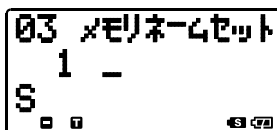
バンド	周波数
50MHz帯	51.00MHz
144MHz帯	145.00MHz
430MHz帯	433.00MHz
AMラジオ放送帯	540kHz
短波帯	1.8MHz
FMラジオ放送帯	76.0MHz
TV放送帯	95.75MHz

メモリータグを使う

メモリータグをつける

メモリーチャンネル、ホームチャンネル、TVチャンネルにコールサインや放送局名などの名前(メモリータグ)をつけることができます(最大8文字)。

- 1 名前をつけるメモリーチャンネルを呼び出します。
メモリーモードで、DIAL ツマミやテンキーでメモリーを選択します。
- 2 **[F/W]** キーを押し、続いて **[BAND]** キーを押します。
各種の設定を行えるセットモードになります。
- 3 **DIAL** ツマミを回して「03 メリネー4セット」を選択し、**[BAND]** キーを押します。
- 4 **DIAL** ツマミを回して文字を選択し、**[BAND]** キーを押して決定します。
- 5 手順4の操作を繰り返して名前のすべての文字を入力します(最大8文字)。
- 6 **PTT** スイッチを押して完了します。
メモリーチャンネルにメモリータグが書き込まれ、もとの表示(大きな文字)に戻ります。



○ 使用できる文字は英数字(大文字/小文字)、カタカナ、および記号です。

○ 手順4で文字を選択するときには、次のキーも使用すると便利です。

[HM/RV] : 文字を、スペース → A → Z → a → z → ア → ア → ハ → シ → ガ → ボ → スペースの順に早送りします。

[TX P0] : 文字を、スペース → ボ → ガ → シ → ハ → ア → ア → z → a → Z → A → スペースの順に逆送りします。

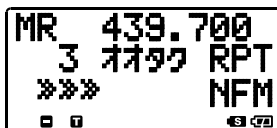
[0] ~ [9] : 数字を入力します。

[F/W] : 左の桁と同じ文字を選択します。 **[MR]** : カーソル以降の文字を消します。

メモリータグを表示する

[2] キーを1秒以上押します。

設定されているメモリータグが表示されます。



○ 大きな文字で表示されているときはメモリータグは表示できません。

[4] キーを1秒以上押して詳細表示に切り替えてください。

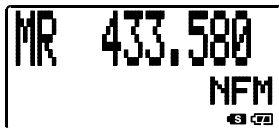
メモリーグループを使う

メモリーチャンネルを使用目的ごとのグループに分けておくことができます。VX-5では5つのメモリーグループを利用でき、1つのメモリーグループには24個のメモリーチャンネルを登録できます。

メモリーグループに登録する

- 1 メモリーグループに登録するメモリーチャンネルを呼び出します。

メモリーモードで、DIALツマミやテンキーでメモリーチャンネルを選択します。



- 2 **[F/W]**キーを1秒以上押し、5秒以内に登録するメモリーグループの番号（1～5）をテンキーで指定します。

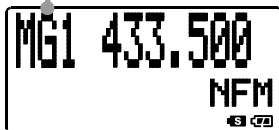
指定したメモリーグループに登録されます。

メモリーグループ内のメモリーチャンネルを呼び出す

- 1 **[F/W]**キーを押し、続いて**[4]**キーを押します。

点滅

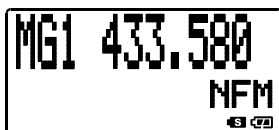
- 2 DIALツマミを回してメモリーグループ（MG1～MG5）を選択し、**[MR]**キーを押します。



- 3 DIALツマミを回して呼び出すメモリーを選択します。

メモリーグループ内のメモリーチャンネルだけを選択することができます。

他のメモリーグループを選択するときは、**[F/W]**キーを押し、続いて**[4]**キーを押します。



- 4 通常のメモリーモードに戻るときは、**[VFO]**キーを押し、続いて**[MR]**キーを押します。

○ **[4]**キーを1秒以上押すと、メモリーグループとメモリーチャンネル番号を同時に表示させることができます。

各種の便利な機能

スキャン

VX-5は、"VFOスキャン"、"プログラマブルメモリスキャン"、"メモリスキャン" および "特定のメモリーチャンネルだけをスキャン" の4つのスキャンを行うことができます。

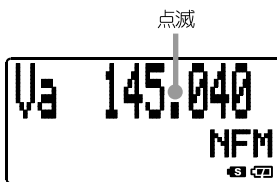
1 VFOスキャン

1 **[BAND]**キーを押して、スキャンするバンドを選択します。

2 **[VFO]**キーを1秒以上押します。

スキャンが開始されます。

スキャン中に信号を受信するとスキャンは5秒間停止し、その周波数を受信します。スキャンが停止しているときには、デシマルポイントが点滅表示されます。5秒経過すると、スキャンが再開されます。



3 スキャンの方向を変える場合は**DIAL**ツマミを回します。

右に回すと周波数が高くなる方向に、左に回すと低くなる方向に変わります。

4 スキャンを中止するときは、**PTT**スイッチまたは**[VFO]**キーを押します。

○ バンドエッジに達したときには"ピピッ"と音が鳴って隣りのバンドに移り、そのバンドをスキャンします。

— スキャンストップ時の受信方法を設定するには —

スキャンが停止したときの動作を設定できます。設定できる動作は次の3種類です。

- 5秒間受信し、スキャンを再開する(選択時の表示は"5SEC")。
- 信号がなくなるまで受信し、信号がなくなってから2秒後にスキャンを再開する(選択時の表示は"BUSY")。
- スキャンを中止し、その周波数を受信する(選択時の表示は"HOLD")。

1 **[F/W]**キーを押し、続いて**[BAND]**キーを押します。

2 **DIAL**ツマミを回して「12 スキャン ストップ」を選択し、**[BAND]**キーを押します。

3 **DIAL**ツマミを回して、使用する受信方法を"5SEC"、"BUSY"、"HOLD"のいずれかから選択します。

4 **PTT**スイッチを押して完了します。

もとの周波数表示に戻ります。

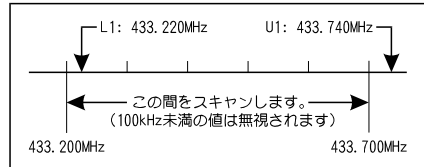
○ この設定は、VFOスキャン、プログラマブルメモリスキャン、メモリスキャン、デュアルレシーブ、VFOa/VFObデュアルレシーブに共通です。

② プログラブルメモリスキャン(PMS)

同一バンド内の指定した周波数の範囲をスキャンします。

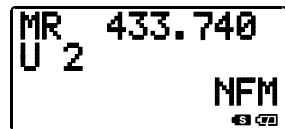
- 1 スキャンしたい周波数範囲の下限周波数をメモリーの "L*", 上限周波数を "U*" (※は1~10の任意の数字で、下限のメモリーと上限のメモリーは同じ番号にしてください) にメモリーします。

16ページを参照し、下限周波数と上限周波数をメモリーに登録します。
下限周波数/上限周波数メモリー(プログラブルメモリーチャンネル)は10組(L1/U1~L10/U10)あります。

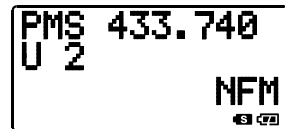


- 2 詳細表示になっていない場合は[4]キーを1秒以上押し、詳細表示にします。

- 3 [MR]キーを押してメモリーモードにし、下限周波数または上限周波数のメモリーを呼び出します。

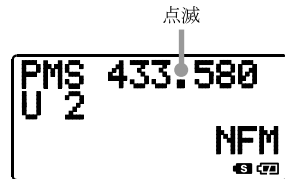


- 4 [MR]キーを押します。
"MR"が消え、"PMS"が表示されます。



- 5 [VFO]キーを1秒以上押します。

スキャンが開始されます。
スキャン中に信号を受信するとスキャンは5秒間停止し、その周波数を受信します。スキャンが停止しているときには、デシマルポイントが点滅表示されます。
5秒経過すると、スキャンが再開されます。



- 6 スキャンが一時停止した周波数でスキャンを止めたいときには、PTTスイッチを押します。

もう一度[VFO]キーを1秒以上押すと、スキャンが再開されます。

- 7 スキャンを中止するときは、[VFO]キーを押します。

VFOモードに戻ります。

- すでにL1/U1~L10/U10に登録されている下限周波数/上限周波数を使ってプログラブルメモリースキャンする場合は、手順1の操作は不要です。
- "L*", "U*" にスキップメモリーが指定されている場合や下限周波数/上限周波数が正しく設定されていない場合は、メモリーチューン動作("MT")になります。
- スキャン中にDIALツマミを回すと、スキャンの方向を変更できます。
- スキャン範囲の上限または下限に達したときにはピピッと音が鳴り、スキャンが繰り返されます。

スキャン

③ メモリースキャン

メモリーされている周波数をメモリーチャンネル番号順にスキャンします。

1 **[MR]** キーを押して、メモリーモードにします。

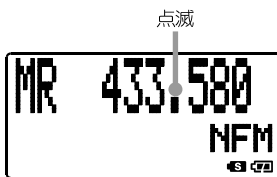
2 **[MR]** キーを1秒以上押します。

スキャンが開始されます。

スキャン中に信号を受信するとスキャンは5秒間停止し、その周波数を受信します。

スキャンが停止しているときには、デシマルポイントが点滅表示されます。

5秒経過すると、スキャンが再開されます。



3 スキャンを中止するときは、PTTスイッチまたは**[MR]** キーを押します。

-
- スキャン中にDIALツマミを回すと、スキャンの方向を変更できます。
 - スキャンするメモリーチャンネルはメモリー番号1～220で、プログラマブルメモリーチャンネル(L1/U1～L10/U10)はスキャンしません。
 - メモリーグループを呼び出しているときは、メモリーグループ内のメモリーチャンネルのみをスキャンします。
 - メモリーグループを選択しているとき(19ページ "メモリーグループ内のメモリーチャンネルを呼び出す" の手順2)にスキャン操作を行うと、各メモリーグループの先頭に登録されているメモリーチャンネルのみを順番にスキャンします。
-

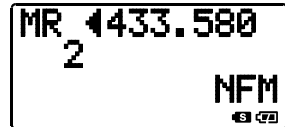
4 特定のメモリーチャンネルのみをスキャンする

メモリスキャン時にスキャンする必要のないメモリーチャンネルにはスキップメモリーを、特定のメモリーチャンネルのみをスキャンしたいときには指定メモリーを設定しておく、特定のメモリーチャンネルのみをスキャンできます。

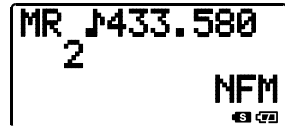
■スキップメモリー／指定メモリーを設定するには

- 1 詳細表示になっていない場合は **[4]** キーを1秒以上押し、詳細表示にします。
- 2 スキップメモリーまたは指定メモリーを設定するメモリーチャンネルを呼び出します。

- 3 **[F/W]** キーを押し、続いて **[MR]** キーを押します。
スキップメモリーが設定され、"**◀**"が表示されます。
スキップメモリーを設定したメモリーチャンネルは、メモリスキャン時にスキップされます。



- 4 指定メモリーを設定するときは、もう一度 **[F/W]** キーを押し、続いて **[MR]** キーを押します。
指定メモリーが設定され、"**♪**"が表示されます。



スキップメモリー／指定メモリーを解除するには、"**◀**"または "**♪**"が消えるまで **[F/W]** キーを押して **[MR]** キーを押す操作を繰り返してください。

■指定メモリーを設定したメモリーチャンネルのみをスキャンするには

- 1 指定メモリーが設定されているメモリーチャンネルを呼び出します。
- 2 **[MR]** キーを1秒以上押します。



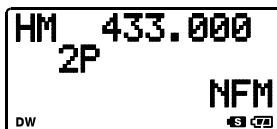
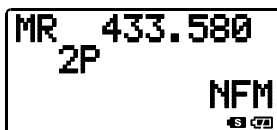
指定メモリーが設定されているメモリーチャンネルのみがメモリスキャンされます。

デュアルレシーブ

1 プライオリティメモリーチャンネルを優先的に受信する

希望するメモリーチャンネルを5秒間に1回優先的に受信できます。

- 1 詳細表示になっていない場合は[4]キーを1秒以上押し、詳細表示にします。
- 2 メモリーモードで、優先的に受信したいメモリーチャンネル（プライオリティメモリーチャンネル）を選択します。
- 3 [F/W]キーを1秒以上押し、続いて[BAND]キーを押します。
プライオリティメモリーチャンネルが設定され、“P”が表示されます。
- 4 常時受信する周波数を選択します。
VFOモード、メモリーモード、またはホームチャンネルの周波数を選択します。
- 5 [F/W]キーを押し、続いて[VFO]キーを押します。
デュアルレシーブが開始され、DWが表示されます。
- 6 デュアルレシーブを終了するときは[VFO]キーを押します。



- 常時受信する周波数とプライオリティメモリーチャンネルの周波数のバンドやモードの組み合わせに制限はありません。たとえば、FMラジオ放送を聞きながら433.00MHzを定期的に受信することができます。
- プライオリティメモリーチャンネルで信号を受信するとデュアルレシーブ動作は中断し、プライオリティメモリーチャンネルの周波数だけを連続して受信します。
信号がなくなると、2秒後にデュアルレシーブは再開されます。

2 VFOaとVFObをデュアルレシーブする

- 1 あらかじめ、VFOモードでVFOa（表示は "Va" ）とVFOb（表示は "Vb" ）に受信する周波数を設定選択します。
- 2 [F/W]キーを押し、続いて[VFO]キーを1秒以上押します。
DWが表示され、VFOaとVFObが0.2秒ごとに交互に受信されます。
- 3 デュアルレシーブを終了するときは[VFO]キーを押します。

- VFOaとVFObのどちらかで信号を受信するとデュアルレシーブ動作は中断し、その周波数だけを連続して受信します。
信号がなくなると、2秒後にデュアルレシーブは再開されます。

スマートサーチ

選択したバンド内をスキャンし、信号を受信した周波数を一時的なメモリー（スマートメモリー）に書き込みます。

スマートメモリーは、DIALツマミを回すと選択できます。

1 VFOモードで、スマートサーチを開始する周波数を選択します。

2 **[F/W]**キーを1秒以上押し、続いて**[LAMP]**キーを押します。

スマートサーチモードになります。

3 **[VFO]**キーを1秒以上押します。

スマートサーチが開始されます。

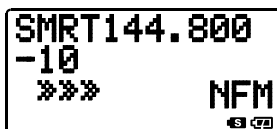
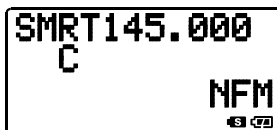
バンド内を1回スキャンするとスマートサーチは終了します。

ただし、バンド内を1回スキャンする前にスマートメモリーが一杯になると、スマートサーチは終了します。

4 DIALツマミを回して、スマートメモリーを呼び出します。

5 スマートサーチモードを終了するときは、**[F/W]**キーを1秒以上押し、続けて**[LAMP]**キーを押します。

スマートサーチを開始する直前の状態に戻ります。



- スマートメモリーはメモリーチャンネルと別に31個あり、スマートサーチを開始した周波数よりも高い側／低い側用に各15個ずつ使用されます（1個はスマートサーチを開始した周波数）。
ただし、バンドエッジ(各バンドの最上下限周波数：たとえば、144MHz帯では "144.000MHz"と "146.000MHz")をスマートサーチの開始周波数とすると、スマートメモリーは片側の15個しか使用できません。
- バンド内を1回スキャンする前にスマートメモリーがいっぱいになると、スマートサーチは終了します。
- セットモード35の設定により、スマートメモリーがいっぱいになるまで、繰り返してサーチするように変更できます。
- スマートメモリーに書き込まれた周波数は次の時点で消去されます。
 - ・再度スマートサーチを開始したとき
 - ・ **[PWR]**キーで電源をオフにしたとき
 - ・ 電池パックまたは乾電池ケースを取り外したとき
 - ・ 電池パックまたは乾電池ケースが取り付けられていないときに外部電源を取り外したとき
- スマートメモリーの周波数は、メモリーに書き込む操作(16ページ)を行うとメモリーチャンネルにメモリーできます。
- 再びスマートサーチを開始するときは、いったんVFOモードまたはメモリーモードに戻ってから行ってください。

■指定した周波数の範囲をスマートサーチするときは

下限周波数または上限周波数を呼び出し、**[MR]**キーを押してから上記の手順2以降を行うと、下限周波数と上限周波数の範囲内をスマートサーチできます。

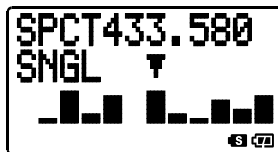
スペアナを表示する

VFOモードまたはメモリーチューン時に、現在の周波数を中心(▼)に上下各5チャンネル(合計11チャンネル)の使用状態をグラフで表示できます。

[F/W]キーを押し、続いて[LAMP]キーを押します。

現在の周波数を中心に、上下各5チャンネルの使用状態を調べ、信号強度がグラフで表示されます。

もう一度[F/W]キーを押し、続いて[LAMP]キーを押すと、スペアナを表示する前の状態に戻ります。



○ 使用状況を表示するチャンネルの間隔は、VFOの周波数ステップと同じ間隔です。

○ セットモード34の設定により、繰り返しスキャンをして、最新の使用状態を表示するように変更できます。なお、繰り返しスキャンを行っているときには、PTTスイッチでスキャンを停止させます。

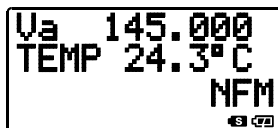
温度を表示する

VX-5内部の温度を表示できます。

[7]キーを1秒以上押します。

もう一度[7]キーを1秒以上押すと、温度の表示を消すことができます。

また[4]キーを1秒以上押すことで、周波数表示を倍角表示にすることができます。



○ VX-5内部の温度を把握する機能です。

○ 温度上昇のない状況(待ち受け受信時など)では、外気温の目安とすることができます。

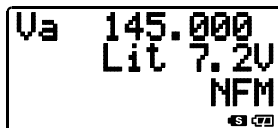
電池の電圧を表示する

使っている電池の種類と電圧を表示できます。

[3]キーを1秒以上押します。

もう一度[3]キーを1秒以上押すと、電圧の表示を消すことができます。

また[4]キーを1秒以上押すことで、周波数表示を倍角表示にすることができます。



○ 電池パックを使っているときには"Lit"、乾電池を使っているときには"Dry"、外部DC電源を使っているときには"EXT"が表示されます。

気圧を表示する

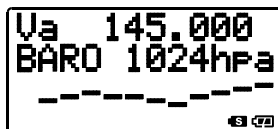
オプションの気圧センサーユニット (SU-1) を取り付けられている場合には、現在の気圧と電源をオンにしてからの気圧の変化をグラフで表示できます。

[8] キーを1秒以上押します。

気圧と気圧の変化が表示されます。

もう一度 **[8]** キーを1秒以上押すと、気圧の表示を消すことができます。

また **[4]** キーを1秒以上押すことで、周波数表示を倍角表示にすることができます。



- 正しい気圧が表示されるまで数秒間かかります。
- 約30分ごとの気圧の変化を "—" で表示します。1ドット当たり3hPaの変化量を示します。
- 周囲の温度により、実際の気圧と異なる場合があります。
- 表示された値が実際の気圧と違う場合は、セットモード 43 で補正してください。

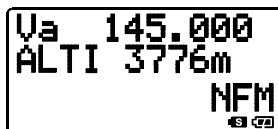
高度を表示する

オプションの気圧センサーユニット (SU-1) を取り付けられている場合には、現在の気圧から算出された高度を表示できます。

[9] キーを1秒以上押します。

もう一度 **[9]** キーを1秒以上押すと、高度の表示を消すことができます。

また **[4]** キーを1秒以上押すことで、周波数表示を倍角表示にすることができます。



- 表示された値が実際の高度と違う場合は、セットモード 44 で補正してください。
- 3桁または4桁で表示します (4000メートル位までの高度を測ることができます)。
- 表示される高度は気圧から算出された値です。あくまでも目安として使用してください。

アイコンで表示する

現在のバンドやモードをアイコンで表示できます (42ページ参照)。

[5] キーを1秒以上押します。

アイコンが表示されます。左のアイコンはバンド、右のアイコンはモードを表します。

もう一度 **[5]** キーを1秒以上押すと、アイコン表示を消すことができます。



- セットモード4で、各バンドやモードとアイコンの対応を変更できます。

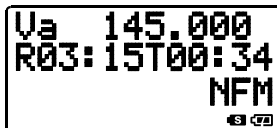
運用時間を表示する

電源をオンにしている時間(運用時間)を、受信時間と送信時間に分けて表示します。

[6] キーを1秒以上押します。

もう一度[6] キーを1秒以上押すと、運用時間の表示を消すことができます。

また[4] キーを1秒以上押すことで、周波数表示を倍角表示にすることができます。



- 表示例では、電源をオンにしている間のうち、受信時間は3時間15分で、送信時間は34分です。
- 運用時間が表示されているときに[F/W]キーを1秒以上押し、続いて[6]キーを押すと、運用時間をリセットできます(R00:00T00:00になる)。

電源がオフのときに温度などを表示させる

1 [F/W]キーを押し、続いて[BAND]キーを押します。

各種の設定を行えるセットモードになります。

2 DIALツマミを回して「45 DISP モード」を選択し、[BAND]キーを押します。

3 DIALツマミを回して、電源がオフのときに表示する内容を選択します。

4 PTTスイッチを押します。

電源をオフにすると、手順4で選択した項目を表示します。



- 電源をオフにしているときに温度などを表示させると、電源がオフのときでも約20mAの電流を消費します。
- 充電中は、この機能は動作しません。
- TEMPは"温度"、BAROは"気圧"、ALTIは"高度"、TEMP+BAROは"温度と気圧"、TEMP+ALTIは"温度と高度"、ALLは"温度/気圧/高度"を表示するという意味です。またNONEを選択すると、電源をオフにしたときに温度などを表示しなくなります。
- 気圧または高度を表示するためには、オプションの気圧センサーユニット(SU-1)が必要です。

緊急を知らせる

照明の点滅とビーブ音で緊急を知らせることができます(エマージェンシー機能)。

[HM/RV]キーを1秒以上押します。

ディスプレイとキーの照明が点滅し、ビーブ音が鳴ります。

周波数は430MHz帯のホームチャンネルが自動的に選択されます。

このときにPTTスイッチを押すとビーブ音が送信されます。

エマージェンシー機能を解除するときは、もう一度[HM/RV]キーを1秒以上押します。

430MHz帯のホームチャンネルに戻ります。

自動的に電源をオン/オフする

自動的に電源をオフにするには

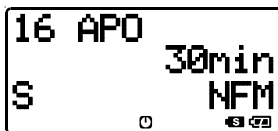
一定の時間操作しないと、自動的に電源をオフにできます(オートパワーオフ機能)。

- 1 **[F/W]**キーを押し、続いて**[BAND]**キーを押します。

各種の設定を行えるセットモードになります。

- 2 **DIAL**ツマミを回して「16 APO」を選択し、**[BAND]**キーを押します。

- 3 **DIAL**ツマミを回して「電源がオフになるまでの時間」を選択します。



- 4 **PTT**スイッチを押します。

オートパワーオフ機能が設定され、もとの表示に戻ります。

設定した時間何の操作もしないと、自動的に電源がオフになります。

○ オートパワーオフ機能がオンのときには **[OFF]** が表示されます。

○ 設定した時間は、手順3の操作で"OFF"を選択するまで、そのまま保持されます(次に電源をオンにしたときも、設定した時間何の操作もしないと、自動的に電源がオフになります)。

自動的に電源をオンにするには

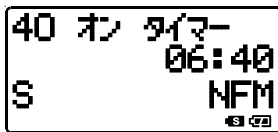
一定の時間が経過すると、自動的に電源をオンにできます(パワーオンタイマー機能)。

- 1 **[F/W]**キーを押し、続いて**[BAND]**キーを押します。

各種の設定を行えるセットモードになります。

- 2 **DIAL**ツマミを回して「40 オン タイマー」を選択し、**[BAND]**キーを押します。

- 3 **DIAL**ツマミを回して「電源がオンになるまでの時間」を選択します。



- 4 **PTT**スイッチを押します。

パワーオンタイマー機能が設定され、もとの表示に戻ります。

- 5 **[PWR]**キーを押し続け、電源をオフにします。

設定した時間が経過すると、自動的に電源がオンになります。

○ 設定できる時間は10分間隔で24時間までです。

○ 設定した時間は、手順3の操作で"OFF"を選択するまで、そのまま保持されます(次に電源をオフにしたときも、設定した時間が経過すると、自動的に電源がオンになります)。

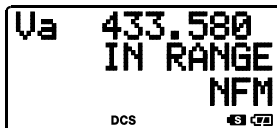
ARTS機能を使う

ARTS機能とは、相手局が交信可能範囲内にいるかどうかを調べることができる機能です。

[BAND]キーを1秒以上押します。

相手局が交信可能な範囲内にいるときは"IN RANGE"が表示されます。

もう一度**[BAND]**キーを1秒以上押すと、ARTS機能を使う直前の状態に戻ります。



- 相手局が交信範囲の外にいるときは、"OUT RANGE"が表示されます。
- 同じDCSコードをセットしてください。ARTS機能に使用するDCSコードは、セットモード*31で変更できます。
- ARTS機能をオンにすると、周波数を変更できなくなります。
- ARTS機能は、ARTS機能のあるトランシーバーどうしで利用できます。
- ARTS機能がオンの状態のままPTTスイッチを押すことにより、相手局と交信できます。
- セットモード18の設定により、相手局からのDCSコードの受信を知らせるピープ音の鳴るタイミングを変更できます。
- セットモード19の設定により、チェックの間隔(相手局が交信可能範囲内にいるかどうかを調べる間隔)を変更できます。
- お買い上げ時の状態では、動作方法は"IN RANGE"、チェック間隔は25秒に設定されています。

■ARTS使用時に自局のIDを送出するには

CW IDを設定すると、ARTS機能がオンのときに自分のコールサインを自動的に、約10分間に1回CWで送出します。

1 **[F/W]**キーを押し、続いて**[BAND]**キーを押します。

各種の設定を行えるセットモードになります。

2 **DIAL**ツマミを回して「33 CW ID」を選択し、

[BAND]キーを押します。

3 **DIAL**ツマミを回して「ON」を選択し、

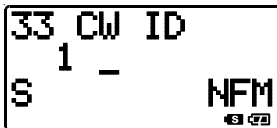
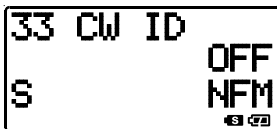
[BAND]キーを押します。

4 **DIAL**ツマミを回して文字を選択し、**[BAND]**キーを押して決定します。

5 手順4の操作を繰り返して、コールサインのすべての文字を入力します(最大16文字)。

6 **PTT**スイッチを押します。

CW IDが設定され、もとの表示に戻ります。



- **CW IDを送出するためには、第三級アマチュア無線技士以上の資格とF2の電波型式の免許が必要です。**
- CW IDを送出するときには、設定したCW IDの前後に"DE"と"K"が自動的に追加されます。(DE "CW ID(コールサイン)" K と送出されます。)
- CW ID送出時にはDCSコードを含みませんので、当人同士はCW IDを聞くことはできません。
- 設定中に**[F/W]**キーを押すと、設定したCW IDをCW音で確認することができます。

DTMF機能を使う

フーンパッチから公衆回線に接続するときに使う電話番号などを、最大16桁のDTMFコードで登録することができます(9チャンネル分)。

DTMFコードを登録するには

- 1 **[F/W]**キーを押し、続いて**[BAND]**キーを押します。
各種の設定を行えるセットモードになります。
- 2 **DIAL**ツマミを回して「32 DTMF セット」を選択し、**[BAND]**キーを押します。
- 3 **DIAL**ツマミを回してDTMFコードを登録するメモリーチャンネル（DTMFメモリー）を選択し、**[BAND]**キーを押します。
- 4 テンキーでDTMFコードを指定します。
- 5 **PTT**スイッチを押します。

DTMFコードが登録され、もとの表示に戻ります。



- 手順3でDTMFコードを登録するとき、モニタースイッチでポーズデータ(ー)を入力できます。また、モニタースイッチを続けて2回押すと、以降のDTMFコードをクリアできます。

登録したDTMFコードを送出するには

- 1 **[F/W]**キーを押し、続いて**[3]**キーを押します。
登録したDTMFコードが送出できる状態になり、「**Ⓜ**」が表示されます。
- 2 **PTT**スイッチを押しながら、送出したいDTMFコードが登録されているDTMFメモリーの番号（1～9）をテンキーで指定します。
登録したDTMFコードが送出されます。また、スピーカーから送出するDTMF音が聞こえます。

- DTMFコードが送出されているときには、PTTスイッチを離しても送信状態を保ちます。

特定の相手局との交信

トーンスケルチまたはDCSを使う

トーンスケルチを使うと、こちらで設定している周波数のトーンが含まれた信号を受信したときのみスケルチが開きます。

また、デジタルコードスケルチ (DCS) を使うと、こちらで設定しているDCSコードが含まれた信号を受信したときのみスケルチが開きます。

これらの機能を使うと、長時間にわたって特定の局からの呼び出しを待ち受けているときに、他局の交信にわずらわされることがなくなります。



○ トーンスケルチがオンのときには **T** と **SQ** が表示されます。また、DCSがオンのときには **DCS** が表示されます。

○ トーンスケルチやDCSはスキャン時やスマートサーチにも有効です。トーンスケルチまたはDCSがオンの状態でスキャンすると、一致する周波数のトーンまたはDCSコードが含まれている信号を受信したときのみスキャンが停止します。

○ モニタースイッチを押すと、トーンまたはDCSコードが含まれていない(または異なる)信号を聞くことができます。

○ セットモード29でも同じ設定を行えます。

■ トーンの周波数を設定するときは

トーンの周波数は、67.0Hz～250.3Hzの39種類から選択できます。



○ 上記の操作で設定したトーンの周波数は、トーンの送出的みを行う場合にも有効です。

○ お買い上げ時の状態では88.5Hzに設定されています。

○ トーンスケルチがオンのときには、**F/W** → **2** キーでセットモード30を呼び出すこともできます。

トーンスケルチまたはDCSを使う

■DCSコードを設定するときは

DCSコードは、023～754の104種類から選択できます。



○ お買い上げ時の状態では"023"に設定されています。

○ DCSがオンのときには、**F/W**→**2**キーでセットモード31を呼び出すこともできます。

■相手局が使用しているトーンの周波数やDCSコードがわからないときには

下記の操作により、トーンの周波数やDCSコードを探して表示することができます。

- 1 トーン周波数を知りたいときにはトーンスケルチをオンにし、DCSコードを知りたいときにはDCSをオンにします。
- 2 相手局の信号を受信している間に**F/W**キーを押し、続いて**2**キーを押します。
- 3 **VFO**キーを1秒以上押すと、トーン周波数またはDCSコードをサーチして表示します。

ベル機能を使う

相手局からの呼び出しをベル音と▼の点滅で知らせることができます。



● ベル機能を使用するためには、トーンスケルチまたはDCSをオンにしてください。

● ベル機能はレピーターでは使用できません。

○ 手順3で"OFF"以外を選択するとベル機能がオンになります。

○ ベル機能がオンのときには▼が表示されます。また、相手局からの信号を受信したときには▼が点滅表示されます。

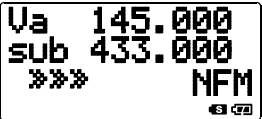
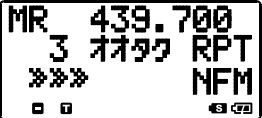
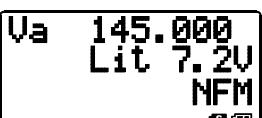
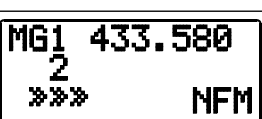
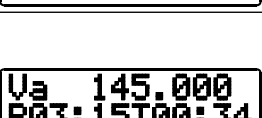
ホールドモード（長押し操作）

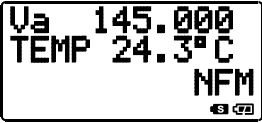
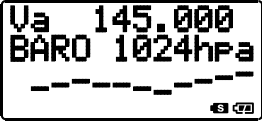
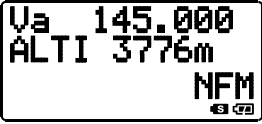
テンキーなどのキーを1秒以上押し続けると、ディスプレイの表示を変更したり、各種の情報を表示できます。

もう一度同じキーを1秒以上押し続けると、直前の状態に戻せます。ただし、倍角表示の状態ではホールドモード（長押し操作）を行った場合は、詳細表示に戻りますので、

□4□ キーを1秒以上押し続けて倍角表示に戻してください。

ホールドモードで使用するキーと機能は次のとおりです。

キー	キー表記	機 能	表示例
[LAMP]	—	照明を連続して点灯します。 もう一度押すと消えます。	
□1□	FRQ	VFOモード時にサブ周波数を表示します（サブ周波数表示）。 また、デュアルレシーブ時にはプライオリティメモリーの周波数を表示します。	
□2□	TAG	メモリータグを表示します（タグ表示）。 メモリータグの登録方法は18ページを参照してください。	
□3□	VLT	電源の種類と電圧を表示します（電圧表示）。 表示される電源の種類は次のとおりです。 Lit：電池/パック Dry：アルカリ乾電池（乾電池ケース） EXT：外部DC電源	
□4□	DSP	倍角表示と詳細表示を切り替えます。	
□5□	ICO	モードとバンドをアイコンで表示します（アイコン表示）。 表示するアイコンはセットモード4で選択します（38ページ）。	
□6□	ONT	電源をオンにしている時間を、受信時間と送信時間をに分けて表示します（運用時間表示）。 表示例では、電源をオンにしている間のうち、受信時間は3時間15分で、送信時間は34分です。 運用時間が表示されているときに[F/W]キーを1秒以上押し、続けて□6□キーを押すと、運用時間をリセットできます（R00:00T00:00にすることができます）。	

キー	キー表記	機 能	表示例
[7]	TMP	VX-5内部の温度を表示します。 待ち受け受信時など、VX-5内部の温度上昇がない状況では、外気温の目安とすることができます。	
[8]	BRO	現在の気圧と、電源をオンにしたときからの気圧の変化を示すグラフを表示します。 気圧は、セットモード43で設定したオフセット値を加えた値が表示されます。 なお、気圧表示するためには、オプションの気圧センサーユニット(SU-1)が必要です。	
[9]	ALT	現在の気圧から算出された高度を表示します。 高度は、セットモード44で設定したオフセット値を加えた値が表示されます。 なお、高度表示するためには、オプションの気圧センサーユニット(SU-1)が必要です。	
[MR]	SC	メモリスキャンを開始します。 PTTスイッチ、[HM/RV]、[MR]、または[VFO]キーを押すと、メモリスキャンを中止できます。	—
[VFO]	SC	VFOモードでは、VFOスキャンを開始します。 メモリーモードでプログラマブルメモリーチャンネルを呼び出し、[MR]を押してから操作すると、プログラマブルメモリスキャン(PMS)を開始します。 PTTスイッチ、[HM/RV]、[MR]、または[VFO]キーを押すと、スキャンを中止できます。	—
[BAND]	AR	ARTSをオン/オフします。 ARTSを使うためには、自局と相手局で同じDCSコードを設定しておく必要があります。	—
[HM/RV]	EMG	エマージェンシー機能をオン/オフします。 エマージェンシー機能をオンにすると、次の動作が行われます。 ●照明が点滅し、ピープ音が鳴ります。 ●周波数は430MHzのホームチャンネルが選択されます。 ●PTTスイッチを押すと、ピープ音が送信されます。	—
[F/W]	—	メモリー書き込みモードに移行します。	—

ファンクションモード

[F/W]キーを押し、それに続けてテンキーなどのキーを押すことにより、いろいろな機能をオン/オフしたり、各種の設定が行えます。

- **[F/W]**キーを押すと、ディスプレイに"F"が5秒間表示されます。この間に次のキーを押してください。何も操作しないと"F"が消え、直前の状態に戻ります。
- 誤って**[F/W]**キーを押してファンクションモードにしてしまった場合は、5秒間なにも操作しないで待つか、もう一度**[F/W]**キーを押してください。直前の状態に戻ります。

ファンクションモードで使用するキーと機能は次のとおりです。

キー	キー表記	機 能	工場設定値
[LAMP]	—	VFOモードで、現在の周波数を中心に上下各5チャンネル(合計11チャンネル)の使用状態をグラフで表示します(スペアナ表示)。 グラフの高さが信号強度です。	—
[1]	TN	トーンスケルチまたはDCSをオン/オフします。トーンスケルチがオンのときには [TSQ] が、DCSがオンのときには [DCS] が表示されます。 セットモード29と同じです(40ページ)。	OFF
[2]	CD	送出するトーンの周波数(トーン送出時またはトーンスケルチ時)を設定します。セットモード30と同じです(40ページ)。 または、DCSコード(DCS時)を設定します。セットモード31と同じです(40ページ)。	トーン:88.5Hz DCS :023
[3]	DT	DTMFメモリー送出をオン/オフします。 DTMFメモリー送出がオンに設定されているときには [DTM] が表示されます。 DTMFメモリー送出は次の手順で行います。 1 PTTスイッチを押します(押したまま)。 2 DTMFメモリーの番号を押します(テンキーの1~9)。 なお、DTMFメモリー送出がオフであっても、PTTスイッチを押しているときにキーを押すと、対応するDTMFが送出されます(DTMF直接送出)。	OFF
[4]	MG	メモリーグループを呼び出します。	—
[5]	AP	APO(一定時間操作しないと自動的に電源をオフにする)時間を設定します。セットモード16と同じです(39ページ)。 APO時間が設定されているときには [APO] が表示されます。	OFF
[6]	RP	レピーターシフトの方向を設定します。セットモード7と同じです(39ページ)。 通常はそのままお使いいただけます。	-RPT

ファンクションモード

キー	キー表記	機 能	工場設定値
[7]	ST	ステップ幅(DIALツマミを1クリック回したときの周波数の変化量)を設定します。セットモード11と同じです(39ページ)。お買い上げ時には各バンドに最適値が設定されています。通常はそのままでお使いいただけます。	—
[8]	TV	TV専用メモリーを呼び出します。	—
[9]	BP	操作時の音をオン/オフします。セットモード20と同じです(40ページ)。	ON
[0]	SQ	現在の受信モード(受信電波型式)でのスケルチのレベルを設定します。 受信モードがWFMのときにはセットモード2、NFMまたはAMのときにはセットモード1と同じです(38ページ)。	WFM : 2 NFM : 1
[MR]	SKP	現在呼び出しているメモリーチャンネルにスキップメモリーまたは指定メモリーを設定します。 スキップメモリーは、メモリスキャン時にスキップされて受信されません。また、指定メモリーは、メモリスキャンを指定メモリーから開始すると、指定メモリーに設定されているメモリーだけがスキャンされます。 なお、スキップメモリーには「◀」、指定メモリーには「♪」が表示されます。	設定なし
[VFO]	DW	デュアルレシーブをオン/オフします。 デュアルレシーブがオンのときには DW が表示されます。 現在の周波数を受信しながらプライオリティメモリー("P"が表示)の周波数を5秒間に1回の割合で受信します。 なお、VFOモードで [VFO] キーを1秒以上押してデュアルレシーブをオンにすると、VFOaとVFObを0.2秒間隔で交互に受信します。	—
[BAND]	SET	セットモード(38ページ)に移行します。	—
[HM/RV]	SET	レピーター運用時に、送信周波数と受信周波数を入れ替えます(リバーズ)。	—
[TX P0]	LOCK	キーなどのロックをオン/オフします。ロック時には、ディスプレイに"L"が表示されます。 ロックする対象はセットモード37で設定します(41ページ)。	OFF
[F/W]	—	ファンクションモードを解除します。	—
モニター スイッチ	—	レピーター運用時に、送信周波数と受信周波数が入れ替わります(リバーズ)。もう一度同じ操作を行うと、元に戻ります。	—
PTT スイッチ	—	一時的にハイパワーで送信します。	—

セットモード

セットモードでは、スケルチのレベルやキーを操作したときの音の有無など、動作に関する各種の設定を行います。

設定モードでの設定は次の手順で行います。



- セットモード の"30:ト-ツト", "31:DCSt"に限り、セットモードの終了は **[2]** キーで行います。
- 他のセットモード番号も続けて設定するときは、手順5で **[BAND]** キーを1秒以上押します。手順2から繰り返せます。
- 設定をまちがえたときは、PTTスイッチを押していったんセットモードを終了してから、もう一度セットモードで設定しなおしてください。

セットモードで設定できる項目は次のとおりです(下線は工場設定値)。

番号	機 能	表 示
1	受信モードがNFMまたはAM時のスケルチのレベルを設定します(0~15)。 (工場設定値:1)	スケルチ レベル
2	受信モードがWFM時のスケルチのレベルを設定します(0~8)。 (工場設定値:2)	ワイド スケルチ
3	メモリーチャンネルに名前(メモリータグ)をつけます。	メモリーチャンネル
4	バンドおよびモードの表示に対応するアイコンを設定します。 1 セットモードで、「4 アイコン」を選択して [BAND] キーを押します。 2 DIALツマミを回してアイコンを設定するバンドまたはモードを選択し、 [BAND] キーを押します。 3 DIALツマミを回して設定するアイコンを選択します。 4 続けて他のバンドやモードにアイコンを設定する場合は [BAND] キーを押 します。アイコンの設定を終了する場合はPTTスイッチを押します。 なお、お買い上げの時の状態でのアイコンの設定および使用できるアイコン の種類については42ページをご覧ください。	アイコン
5	VFOモードでDIALツマミで周波数を選択するときの範囲を設定します。 オール: バンドエッジに達してさらにDIALツマミを回すと、次のバンドに切 り替わります。 バンド: バンドエッジに達してさらにDIALツマミを回すと、現在のバンドの 他端になります。	VFOモード
6	ARS(レピーターの周波数を合わせるだけでレピーターを使える状態に自動的 に設定する)機能をオン/オフします(ON/OFF)。	ARS

セットモード

番号	機 能	表 示
7	レピーターシフトの方向を設定します。 -RPT : マイナス方向(■が表示) +RPT : プラス方向(■が表示) SIMP : シフトなし 430MHz帯を選択している状態からセットモードに移行してください。	レピーターシフト
8	レピーターシフトの幅を設定します(0~99.95MHz)。(工場設定値:5MHz) 430MHz帯を選択している状態からセットモードに移行してください。	シフト幅セッテイ
9	VFOスプリット(VFOaとVFObによる送受信操作)をオン/オフします(ON/OFF)。 VFOスプリットがオンのときには■■が表示されます。	VFOスプリット
10	VFOリンク(DIALツマミで周波数選択時にVFOaとVFObを同時に同じだけ変更する)機能をオン/オフします(ON/OFF)。 なお、VFOaとVFObが同一バンドであること、またセットモード5を"バンド"に合わせる必要があります。	VFOリンク
11	ステップ幅(DIALツマミで周波数選択時に1クリックで変化する周波数とVFOスキャン時の周波数変化量)を設定します(5 / 10 / 12.5 / 15 / 20 / 25 / 50 / 100kHz)。お買い上げ時の状態ではバンドごとに最適値が設定されていますので、通常はそのままでお使いいただけます(50MHz帯では"5kHzと15kHz"は選択できません。 また、AMラジオ放送帯は"9kHz固定"です)。	チャンネルステップ
12	スキャンストップ時の受信方法を設定します。 5SEC : 5秒受信した後、スキャンを再開します。 BUSY : 信号がなくなるまで受信し、信号がなくなるとスキャンを再開します。 HOLD : スキャンを中止して、その周波数を受信し続けます。	スキャンストップ
13	スキャンストップ時の照明の点灯を設定します(ON/OFF)。	スキャンランプ
14	受信セーブ時間を設定します。 OFF : 受信セーブしません(連続受信)。 200mS(1:1) : 200mS受信して200mSセーブ 300mS(1:1.5) : 200mS受信して300mSセーブ 500mS(1:2.5) : 200mS受信して500mSセーブ 1S(1:5) : 200mS受信して1Sセーブ 2S(1:10) : 200mS受信して2Sセーブ 受信セーブがオンのときは、■■が点滅します(信号受信中は点灯)。	RXセーブジカ
15	送信セーブ機能をオン/オフします(ON/OFF)。 送信セーブ機能をオンにすると、相手局の信号強度がフルスケールの場合、送信出力がハイパワーまたはL3のときにはL2に、L2のときにはL1に下がります。	TXセーブキカ
16	APO(一定時間操作しない自動的に電源をオフにする)時間を設定します(OFF/30min/1hour/3hour/5hour/8hour)。 APO時間が設定されているときには■■が表示されます。	APO
17	送信時や信号入感時のTX/BUSYランプの点灯を設定します(ON/OFF)。	BUSY LED
18	ARTS機能の動作時のピープ音を設定します。 IN RANGE : 初めて交信可能範囲内にいることが確認されたときだけ"ピピッ"とピープ音を鳴らし、初めて交信可能範囲外になったときだけ"ピピピッ"とピープ音を鳴らします。 ALWAYS : 交信可能範囲内にいるときはいつも"ピピッ"とピープ音を鳴らし、初めて交信可能範囲外になったときだけ"ピピピッ"とピープ音を鳴らします。 OFF : ARTSのピープ音をオフにします。	ARTSピープ

セットモード

番号	機 能	表 示
19	ARTS動作時のチェック間隔(25SEC/15SEC)を設定します。	ARTS カカリ
20	キー操作時等のピープ音をオン/オフします(ON/OFF)。	KEY ビープ
21	DIALツマミでの周波数選択時に、バンドエッジやメモリーチャンネル1を通過したときのピープ音を設定します(ON/OFF)。	エッジ ビープ
22	ベル機能の呼び出し音を設定します(OFF/1/3/5/8ルツァ)。ベル機能が"OFF"以外に設定されているときには  が表示されます。	ベル キョウ
23	お買い上げ時の状態でお使いください。(MON/T-CAL)。	MON/T-CAL
24	HM/REV キーの機能を変更します。 HOME : ホームチャンネル呼び出し REV : リバース設定	HOME/REV
25	照明の点灯方法を設定します。 KEY : キー操作をすると自動的に点灯し、キー操作を終了すると5秒後に自動的に消灯します。 5SEC : LAMP キーを押すと5秒間点灯し、自動的に消灯します。ランプが点灯している間にキー操作をすると点灯し続け、操作を終了すると5秒後に自動的に消灯します。 TOGGLE : もう一度 LAMP キーを押すまで連続点灯します。	ランプ モード
26	タイムアウトタイマー(TOT:連続送信時間の制限)の時間を設定します(OFF/1min/2.5min/5min/10min)。	TXジ カタゲッ
27	ビジーチャンネルロックアウト(BQLO:使用中の周波数での送信禁止)を設定します(ON/OFF)。	ビジー-TXキリン
28	通常は"ON"で使用してください。	知ツク シト
29	選択したスケルチを設定します。 OFF : トーン送出、スケルチともにオフにします。 TONE : トーン送出のみを行います(T が表示)。 TONE SQL : トーンスケルチをオンにします(T SQ が表示)。 DCS : デジタルコードスケルチをオンにします(DCS が表示)。	スケルチ タイプ
30	トーンの周波数を設定します(67.0~250.3kHzの39種類)。(工場設定値:88.5Hz)	トーン セット
31	DCSコードを設定します(023~754の104種類)。(工場設定値:023)	DCS セット
32	DTMFコード(16桁以内)をDTMFメモリー1~9に登録します。 DTMFメモリーをDIALツマミで選択して BAND キーを押し、続いてテンキーでDTMFコードを指定して BAND キーを1秒以上押します。	DTMF セット
33	ARTS機能を使用しているときに動作する、CWによるID送出を設定します。 "ON"を選択したときには、 BAND キーを押した後に、DIALツマミ(文字選択)と BAND キー(桁送り)でコールサイン(16文字以内)を指定します。 なお、CWでIDを送出するためには、第三級アマチュア無線技士以上の資格とF2の電波型式の免許が必要です。	CW ID
34	スペアナの動作を設定します。 1 : 1回スキャンして、その結果を表示します。 レバグ : 繰り返しスキャンして、最新の結果を表示します。	スペアナ モード

番号	機 能	表 示
35	スマートサーチの動作を設定します。 1 : 1回サーチしてスマートメモリーに書き込みます。 インク : スマートメモリーがいっぱいになるまで、繰り返しサーチして書き込みます。	スマートサーチ
36	受信モード(受信電波型式)を設定します(AUTO/N-FM/W-FM/AM)。AUTO以外のモードからAUTOに変更した場合は、セットモードを終了したあとにDIALツマミを回すことで、AUTOが有効になります。	RX モード
37	ロックする対象を設定します。 (KEY/DIAL/PTT/KEY+DIAL/KEY+PTT/DIAL+PTT/ALL) [PWR]キー / [F/W]キー / [LAMP]キーとモニタースイッチはロックの対象外です。	ロック キリ
38	将来、チャンネルステップが変更になった場合に対応するための機能です(OFF/ON)。	ハーフトビデーション
39	セットモードでの表示言語を切り替えます(ENGLISH/日本語)。	ゲンゴ セッテイ
40	自動的に電源をオンにするまでの時間(パワーオンタイマー)を10分単位で設定します(OFF~24:00)。	オンタイマー
41	ディスプレイのコントラストを調節します(1~10)。(工場出荷状態: 5)	ヒョウシノ ノド
42	Sメーター/パワーメーターの表示パターン(●/■/●/=/▲/-/Q-R)を設定します。 "Q-R"を選択したときには、[BAND]キーを押した後に、8桁の文字をDIALツマミ(文字選択)と[BAND]キー(桁送り)で指定します。	Sメーターセッテイ
43	気圧のオフセット値を設定します。 例) 正確な気圧計の表示が"1024hPa"のときに、VX-5の気圧表示が"1018hPa"を示しているときには、その差である"+6(hPa)"をオフセット値として設定します。	ギョウ オフセット
44	高度のオフセット値を設定します。 例) 海辺(高度"0m")でVX-5の高度表示が"2m"を示しているときには、その差である"-2(m)"をオフセット値として設定します。	コウド オフセット
45	電源がオフのときに表示する内容を設定します(NONE/TEMP(温度)/BARO(気圧)/ALTI(高度)/TEMP+BARO/TEMP+ALTI/ALL)。 "NONE"以外を選択したときには、電源オフ時でも約20mAの電流を消費します。	DSP モード

※ 電源オフ時にディスプレイに温度などを表示しているとき、またはパワーオンタイマーが設定されているときには、外部(EXT DC)接続端子へのコードの抜き差しは行わないでください。

■セットモードの設定のみをリセットするときは

セットモードの設定のみをクリアするときは、[MR]キーと[VFO]キーを押しながら電源をオンにします。

"SET MODE RST PUSH F KEY"の表示が出ましたら、[F/W]キーを押すと、セットモードでの設定のみがすべてリセットされ、お買い上げ時の状態に戻ります。

[F/W]キー以外のキーを押せば、リセットを中止することができます。

○ メモリーした周波数など、セットモード以外で設定した項目はリセットしません。

○ ホールドモード(長押し操作)で設定した値も、お買い上げ時の状態に戻ります。

アイコン一覧

お買い上げ時に設定されているアイコン

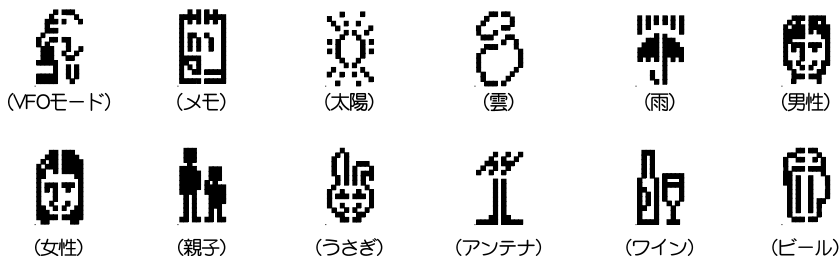
■ 各モードに設定されているアイコン



■ 各モードに設定されているアイコン



自由に設定できるアイコン



■ バンドやモードにアイコンを設定するときは

- 1 セットモードで「4 アイコン」を選択し、**[BAND]**キーを押します。
- 2 **DIAL**ツマミを回してアイコンを設定するバンドまたはモードを選択し、**[BAND]**キーを押します。
- 3 **DIAL**ツマミを回して設定するアイコンを選択します。
続けて他のバンドやモードにアイコンを設定するときは**[BAND]**キーを押し、手順2と手順3を繰り返します。
- 4 **PTT**スイッチを押して、アイコンの設定を完了します。

ディスプレイの表示と意味

VX-5では12桁×3行のドットマトリクス液晶ディスプレイを採用しており、より多くの情報を表示できるとともに、カタカナによる日本語表示も可能になっています。

Sメーター／
パワーメーター

状態

F: ファンクション
モード
W: 書き込み
モード
L: ロック
S: セットモード

受信モード
(NFM/WFM/AM)

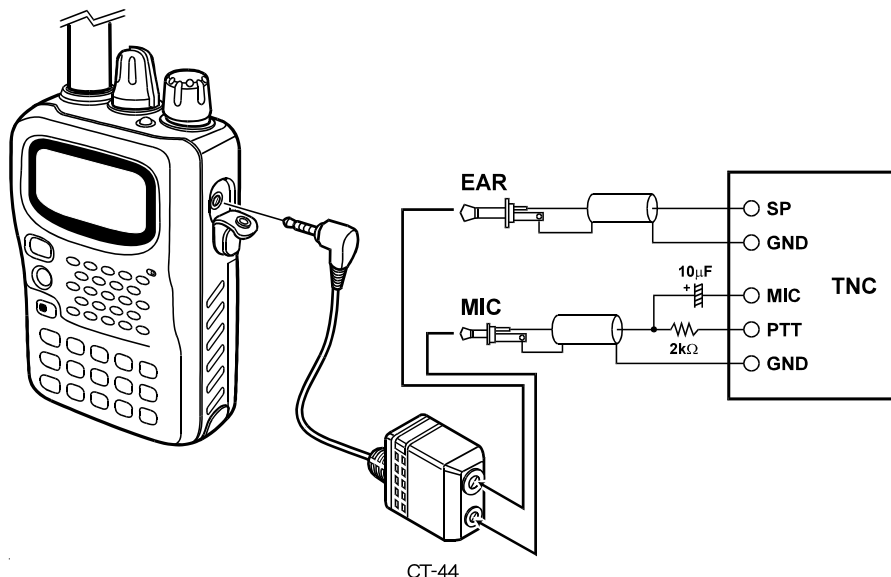
Va 145.000
sub 433.000
*** NFM
DW DCS L

アイコン	意 味	参照
DW	デュアルレシーブ時に表示されます。	24
 	レピーター運用時にレピーターシフトの方向を表示します。 : -RPT : +RPT	39
 	トーンおよびスケルチの状態を示します。 : トーン送出時に表示されます。 : トーンスケルチがオンのときに表示されます。	32
DCS	DCSがオンのときに表示されます。	32
	APOが動作しているときに表示されます。	39
	送信パワーを下げているときに表示されます。 なし: ハイパワー : L3 : L2 : L1	15

アイコン	意 味	参照
	ベル機能がオンのときに表示されます。	33
	DTMFメモリ送出がオンのときに表示されます。	40
	受信セーブ時に表示されます。	39
	バッテリーの状態が表示されます。 電池/バック使用時 なし: ほぼ一杯に充電されています。 : まだ使えます。 : 残りわずかです。 : 空になりました。 : すぐに充電してください。 (点滅) 乾電池使用時 : まだ使えます。 : アルカリ乾電池を交換してください。 (点滅)	11

パケット通信に使うときは

マイクアダプター (CT-44) を使用すると、お手持ちのTNC(ターミナルノードコントローラー)を接続してパケット通信を行うことができます。



接続後、VOLツマミを回して、VX-5からTNCへの出力レベルを調節してください。また、TNC側の出力レベル調節用ボリュームでTNCからVX-5への入力レベルを調節してください(VX-5側では入力レベルは調節できません)。

- 大量のデータを転送するときには送信時間が長くなり、本機の発熱が大きくなります。長時間送信し続けると、過熱防止回路が作動して送信出力が下げられます。さらに送信を続けると、過熱による故障を防ぐために、送信が中止されて受信状態になります。過熱防止回路が作動して受信状態になったときには、電源をオフまたは受信状態のまま、温度が下がるまでお待ちください。
- パケット通信時には受信セーブ機能はオフに設定してください(39ページ、セットモード14)。
- パーソナルコンピューターで発生する雑音によって、受信が妨害される場合があります。正常に受信できない場合は、パーソナルコンピューターをVX-5から離し、フォトカプラーやノイズフィルターを介して接続してください。
- TNCとパーソナルコンピューターの接続方法については、ご使用になるTNCの取扱説明書等をご覧ください。

クローン操作

メモリーされているデータや各種の設定などをもう1台のVX-5にコピーできます。

1 2台のVX-5の電源をオフにし、オプションのクローンケーブル(CT-27)をMIC/SP端子に接続します。

2 2台のVX-5を、**[F/W]**キーを押しながら電源をオンにします。
クローンモードになります。

CLONE

3 受け側のVX-5の**[MR]**キーを押し、続いて送り側のVX-5の**[VF0]**キーを押します。
データのコピーが開始されます。
コピーが終了すると、受け側のVX-5が通常のモードに戻ります(送り側のVX-5は"CLONE TX"のままです)。

CLONE RX

(受け側)

CLONE TX

(送り側)

4 2台のVX-5の電源をオフにし、クローンケーブルを外します。

-
- データの転送中に受け側のVX-5に "CLONE ERROR" が表示された場合はエラーです。
クローンケーブルの接続を確認してもう一度やりなおしてください。
-

アマチュア無線局免許申請書類の書きかた

VX-5を使った新規開局または変更には次の書類が必要です。

新規開局	変 更
●無線局免許申請書 ●無線局事項書及び工事設計書 ●送信機系統図(付属装置がある場合のみ) ●アマチュア局の無線設備の保証認定願(付属装置がある場合のみ)	●アマチュア局の無線設備等の変更申請(届)書 ●無線局事項書及び工事設計書 ●送信機系統図(付属装置がある場合のみ) ●アマチュア局の無線設備等の変更の保証認定願(付属装置がある場合のみ)

「無線局事項書及び工事設計書」の書きかた

VX-5は技術基準適合機ですので、技術基準適合証明番号を記入することにより、下記記入例の*欄は記入を省略できます。

技術基準適合番号を
記入する

[illegible]

○ VX-5の技術基準適合番号は、背面の技術基準適合証明シールに記載されています。

○ VX-5固有の記載事項以外については、『アマチュア無線局（個人局）の開局申請書類の書き方』（社団法人日本アマチュア無線連盟発行）などを参考にして記入してください。

「アマチュア局の無線設備の保証認定願」／「アマチュア局の無線設備等の変更の保証認定願」の書きかた（付属装置がある場合）

VX-5にTNCなどの付属設備を接続する場合には「保証認定」で申請します。

《例：新規開局の場合》

B 保証願
右記証明のあるトランシーバだけで申請する場合は、この用紙でなく「**■発行願**」を填めてください。

アマチュア局の無線設備の保証認定願

(印) 日本アマチュア無線振興協会
会長 原 昌 三 殿

私は、アマチュア局の免許申請に係る保証認定を受けたので、別紙の書類を添付して、保証認定を受けることとします。

出願者 フリガナ

フリガナ ① 社団の名称 ② 氏名 ③ 住所 ④ 郵便番号 ⑤ 連絡先電話番号	フリガナ ⑥ 氏名 ⑦ 住所 ⑧ 郵便番号 ⑨ 連絡先電話番号
--	---

使用するトランシーバ（送信装置）

送信機番号	① 送信機の型式等（注1）	② 周波数範囲（注3）	③ 出力
第1送信機	記入欄	出力範囲	有
第2送信機	有	有	有
第3送信機	有	有	有
第4送信機	有	有	有
第5送信機	有	有	有
第6送信機	有	有	有
第7送信機	有	有	有

この特記事項を記入する欄
（注1）技術基準
種の規定等
は別紙に
記載する
（注2）テスト、
たときは、

〔出願用紙〕

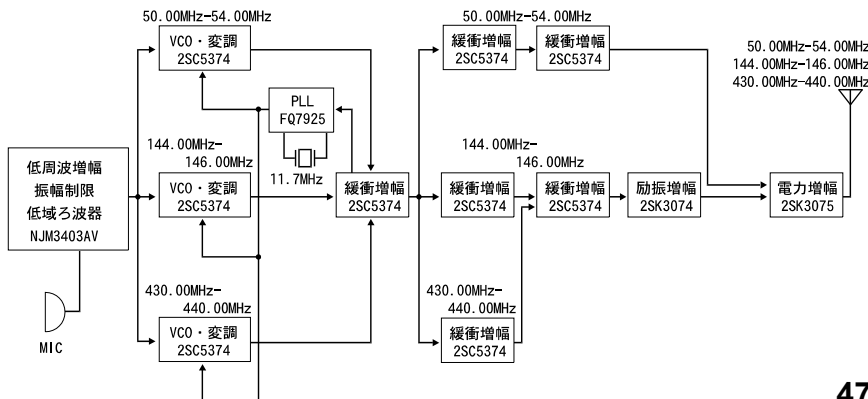
20	200
----	-----

付属装置

名 称	方 式 ・ 規 格（注）	備考欄で記入する送信機番号
(13) パケット通信装置	(14) ①方式 ②通信速度 ③誤差伝送率 ④符号構成	(15)
(16) RTTY装置	(17) ①方式 ②通信速度 ③誤差伝送率	(18)
(19) フォクシミリ装置	(20) ①方式 ②最高周波数 ③最低周波数 ④最大出力	(21)
(22) テレビジョン装置	(23) ①方式 ②在りての最大周波数 ③在りての最低周波数 ④最大出力	(24)
(25)	(26)	(27)
(28)	(29)	(30)

- 技術基準適合外の無線機といっしょに保証認定で申請（アマチュア局の無線設備の保証認定願／アマチュア局の無線設備等の変更の保証認定願）する場合であっても、VX-5に関しては技術基準適合機として申請できます。
- VX-5の技術基準適合番号は、背面の技術基準適合証明シールに記載されています。
- 『方式・規格』の記入事項については、お使いのTNCの取扱説明書を参照してください。

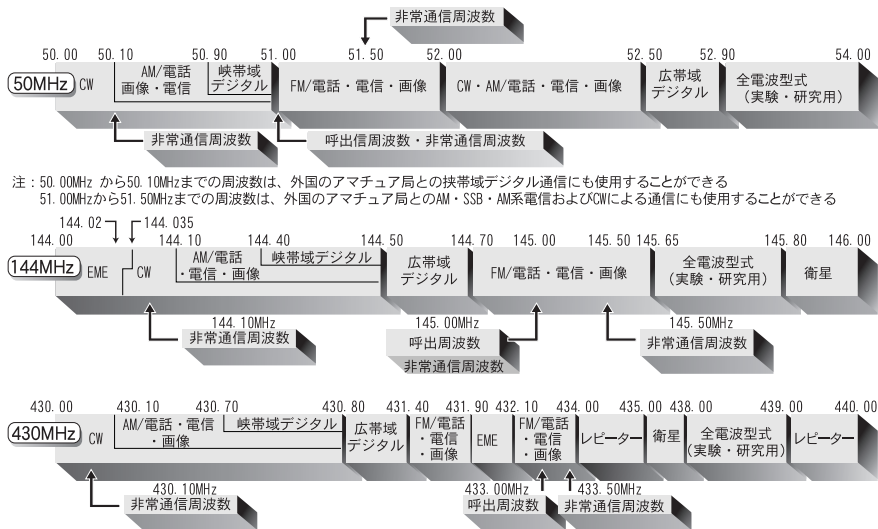
《送信機系統図》



メモ

付
録

周波数の使用区分



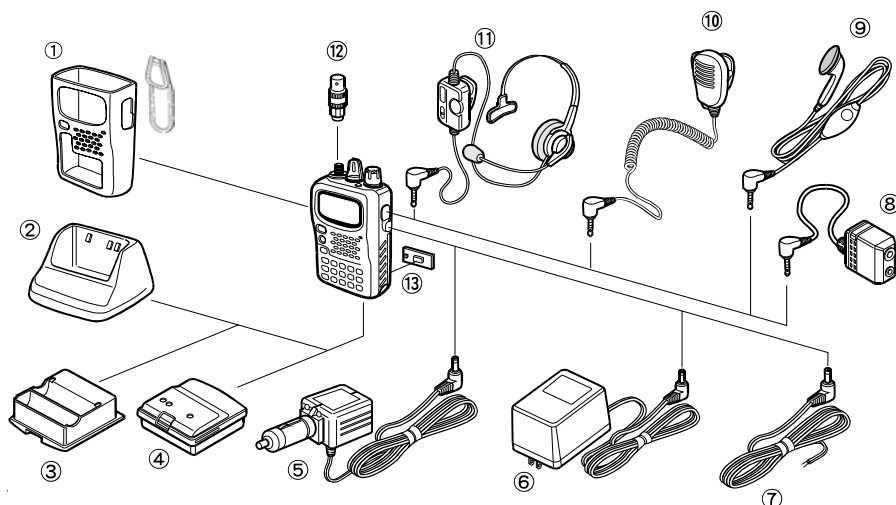
伝送情報および用途等	アマチュア業務に使用する電波型式
CW	A1
AM/電話・電信	A2 ^{*1} , A3, A3A, A3H, A3J (SSB), A9 ^{*2}
AM/データ・画像	A2 ^{*3} , A4, A5J ^{*4} , A9 (FAX), A9C (FAX), F1 ^{*3} , F4 ^{*5} , F5 ^{*6}
FM/電話・電信	F2 ^{*1} , F3
FM/データ・画像	F2 ^{*3} , F4 ^{*7} , F5 ^{*8} , F9 (FAX)
衛星 ^{*9}	A1, A3A, A3H, A3J (SSB), F1 ^{*3} , F2 ^{*3}
EME ^{*10}	A1, A2 ^{*1} , A3, A3A, A3H, A3J (SSB)
レピーター ^{*11}	F2, F3, F4 ^{*7} , F5 ^{*8} , F9 (FAX)
全電波型式 ^{*12}	A1, A2, A3, A3A, A3H, A3J, A4, A5, A5C, A5J, A9, A9C, F1, F2, F3, F4, F5, F9, P0, P1, P2D, P2E, P2F, P3D, P3F, P9
狭帯域デジタル ^{*13}	F1
広帯域デジタル ^{*14}	F1 ^{*3} , F2 ^{*3}

- *1 A2およびF2は、モールス無線電信による通信に使用する電波とする。
- *2 A3は、抑圧搬送波両側波帯の無線電話の電波とする。
- *3 A2、F1、およびF2は、データ伝送(機械によって、処理される情報または処理された情報の伝達)を行う電波とする。
- *4 A5Jは、主搬送波を変調した副搬送波で振幅変調(抑圧搬送波単側波帯の場合に限る)してテレビジョン伝送を行うF5に該当しない電波とする。ただし、占有周波数帯幅は、3kHz以下とする。
- *5 F4は、主搬送波を周波数変調した副搬送波で振幅変調(抑圧搬送波単側波帯の場合に限る)してファクシミリ伝送を行う電波とする。ただし、変調信号の帯域幅は3kHz以下とする。

- *6 F5は、主搬送波を周波数変調した副搬送波で振幅変調(抑圧搬送波単側波帯の場合に限る)してテレビジョン伝送を行う電波とする。ただし、変調信号の帯域幅は3kHz以下とする。
- *7 F4は、主搬送波を直接にまたは周波数変調した副搬送波で周波数変調してファクシミリ伝送を行う電波とする。ただし、変調信号の帯域幅は3kHz以下とする。
- *8 F5は、テレビジョン伝送を行う電波で、変調信号の帯域幅は3kHz以下とする。
- *9 衛星は、衛星通信に使用する電波をいう。
- *10 EMEは、月面反射通信に使用する電波をいう。
- *11 レピーターは、社団法人日本アマチュア無線連盟(JARL)のアマチュア業務の中継用無線局(レピーター局)との通信に使用する電波をいう。
- *12 全電波型式とは、各アマチュア局に指定されているすべての電波型式とする。
- *13 占有周波数帯幅が6kHz以下のものに限る。
- *14 占有周波数帯幅が6kHzのものに限る。

オプション

使用できるオプション



①ソフトケース(CSC-73)

②急速充電器(CD-15)

③乾電池ケース(FBA-23)

④電池パック(FNB-58LI)

⑤シガープラグ付き外部電源アダプター
(E-DC-5B)

⑥ACアダプター(NC-72A)

⑦外部電源ケーブル(E-DC-6)

⑧マイクアダプター(CT-44)

⑨イヤピースマイク(MH-37A4B)

⑩スピーカーマイク(MH-34B4B)

⑪VOXヘッドセット(VC-25)

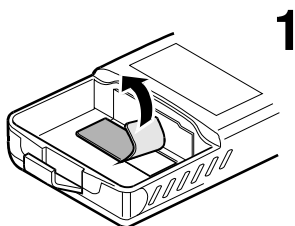
⑫アンテナ変換コネクタ(CN-3)

⑬気圧センサーユニット(SU-1)

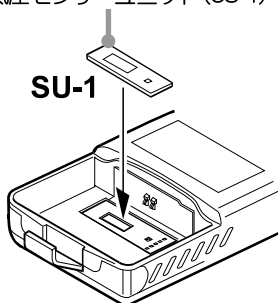
気圧センサーユニットの取り付け

気圧センサーユニット(SU-1)は、本格的な測定を目的として製造されたものではありません。測定された値は、あくまで目安の値として使用してください。

気圧センサーユニット(SU-1)



電池パックを取り外し、シールをはがします。



気圧センサーユニットをコネクタに差し込んで、付属のシールを貼り、電池パックを取り付けます。

故障かな？と思ったら 修理を依頼される前に、次の事項を確認してください。

■電源が入らない

- バッテリー（電池パックまたはアルカリ乾電池）が消耗していませんか？（11ページ）
- アルカリ乾電池は正しく乾電池ケースにセットしてありますか？（11ページ）
指定どおりにプラス（+）/マイナス（-）の極性を間違えず、正しく乾電池ケースに入れてください。
- 外部電源の接続は間違っていないですか？（10ページ）
外部電源を使用するときには、必ずオプションの外部電源ケーブル“E-DC-6”またはシガープラグ付き外部電源アダプター“E-DC-5B”を使用してください。
- バッテリーまたは外部電源の電圧は正常ですか？（10ページ、26ページ）
電圧表示では、バッテリーの場合は残量があること、外部電源入力の場合は電圧がDC12～16Vであることを確認してください。

■音が出ない

- スケルチのレベルの設定が大きくなっていませんか？（15ページ）
モニタースイッチを押して、ザーという音が出ることを確認してください。
弱い信号を受信するときには、スケルチレベルを調整してください。
- VOLツマミを左方向にまわしすぎていませんか？（12ページ）
- トーンスケルチまたはDCSがオンになっていませんか？（32ページ）
トーンスケルチまたはDCSがオンのときには、設定したトーン周波数またはDCSコードと同じ信号が含まれた信号を受信するまでは音は出ません。

■電波が出ない

- PTTスイッチは確実に押していますか？
- PTTロックがオンになっていませんか？（41ページ）
- BCLO機能がオンになっていませんか？（40ページ）
BCLO機能がオンのときには、信号を受信しているときにPTTスイッチを押しても電波は出ません。
信号がなくなるの待ってからPTTスイッチを押してください。
- VFOスプリットで、送信周波数がアマチュアバンドからはずれていませんか？（39ページ、49ページ）
- 送信周波数はアマチュアバンドですか？
AMラジオ放送帯/短波帯/FMラジオ放送帯/TV放送（音声のみ）帯では送信できません。
- バッテリーまたは外部電源の電圧は正常ですか？（10ページ、26ページ）
バッテリーの残量を確認してください。
また、送信時に電圧降下を起こすような電源では、VX-5の性能を十分に発揮することはできません。

■キーやDIALツマミを操作できない

- キーロックやDIALロックがオンになっていませんか？（15ページ、41ページ）
- AMバンドでは放送局の正しい周波数を選択しましたか？（14ページ）

■設定状態が変わってしまう

- PWRスイッチ以外の方法で電源をオフにしていますか？
車載運用時にVX-5の電源をオンにしたまま自動車のエンジンを切った場合などのように、PWRスイッチ以外の方法で電源をオフしたときには、VX-5は電源をオフにしたときの状態を保持しません。
同様に、電源ケーブルの接続不良などにより、電源が瞬間的にオフになったときにも、VX-5は電源をオンにしたときの状態に戻ってしまいます。

索引

英数字

APO時間を設定する	29
ARSをオン/オフする	38
ARTS動作時の音を設定する	39
ARTSをオン/オフする	30
BCL0を設定する	40
CWによるID送出を設定する	30
DCSコードを探す	33
DCSコードを設定する	33
DCSをオン/オフする	32
DTMFコードをDTMFメモリーに 設定する	31
DTMFメモリー送出をオン/オフする	31
PMS	21
Sメーター/パワーメーターの 表示方法を設定する	41
TOT	40
TV放送帯を受信する	14
VFOaとVFObの切り替え	12
VFOaとVFObの周波数を同時に 同じだけ変更する(VFOリンク)	39
VFOaとVFObの周波数を 交互に受信する	24
VFOスキャン	20
VFOスプリット	39
VFOリンクをオン/オフする	39

あ

アイコンで表示する	27
アイコンの種類	42
アイコンを変更する	38, 42
アンテナの取り付け	9
一時的にハイパワーで送信する	15
一定時間操作しないと 自動的に電源をオフにする	29
運用時間を表示する	28
エマージェンシー機能	28
大きな文字で表示する	34
オートマチックレピーターシフト	38
オールリセット	13
オプション	50
温度を表示する	26

か

買ったときの状態に戻す	13
気圧センサーの取り付け	50
気圧のオフセットを設定する	41
気圧を表示する	27
キーをカスタマイズする	40
緊急を知らせる	28
クローン	45
高度のオフセットを設定する	41
高度を表示する	27

さ

サブ周波数を表示する	34
指定メモリーを設定する	23
周波数の使用区分	49
周波数のステップ幅を設定する	39
周波数の設定	13
受信セーブ時間を設定する	39
受信モードを切り替える	41
使用中の周波数では 送信できないように設定する	40
詳細な情報を表示する	34
照明の点灯方法を設定する	40
照明を点灯する	12
照明を連続点灯する	40
スキップメモリーを設定する	23
スキャンストップ時の 受信方法を設定する	20
スキャンストップ時の 照明点灯を設定する	39
スケルチのレベルを設定する	15
スケルチを開く	12
スベアナの動作を設定する	40
スベアナを表示する	26
スマートサーチする	25
スマートサーチの 動作を設定する	41
セットモード	38
セットモードに移行する	38
セットモードの設定だけを リセットする	41
セットモードリセット	41
操作時のピープをオン/オフする	40
送信時間を表示する	28
送信出力を切り替える	15

送信する	12
送信セーブ機能を設定する	39

た

タイマーで電源をオンにする	29
タイムアウトタイマーを設定する	40
ディスプレイのコントラストを調節する	41
ディスプレイの表示と意味	43
デュアルレシーブ	24
電源オンの時間を表示する	28
電源がオフのときに 表示する内容を設定する	28
電源の種類と電圧を表示する	26
電池パックの充電	10
トーンスケルチをオン/オフする	32
トーンの周波数を探す	33
トーンの周波数を設定する	32

な

入感時のTX/BUSYランプの 点灯を設定する	39
----------------------------------	----

は

倍角で表示する	34
パケット通信	44
パワーオンタイマーを設定する	29
バンドエッジやメモリーチャンネル1を 通過したときのビーブ音を設定する	40
バンドを選択する	12
ビジーチャンネルロックアウトを 設定する	40
表示言語(セットモード)を切り替える	41
ファンクションモードを解除する	36
プライオリティメモリーチャンネルを 設定する	24
プログラマブルメモリスキャンする	21
ベル機能	33
ホームチャンネルの周波数を変更する	17
ホームチャンネルを呼び出す	17

ま

メモリーVFO転送	17
メモリーオンリーモード	17
メモリーグループ	19
メモリスキャンする	22

メモリータグの表示をオン/オフする	18
メモリータグをつける	18
メモリータグを表示する	18
メモリーチャンネルに 周波数などを書き込む	16
メモリーチャンネルの周波数を VFOに移す	17
メモリーチャンネルの周波数を 一時的に変更する	17
メモリーチャンネルを呼び出す	17
メモリーチューン	17
メモリーモードに移行する	17
メモリーを消す	16

ら

リセットする	13
リバース	37
レピーターシフトの幅を設定する	39
レピーターシフトの方向を設定する	39
連続送信の時間を制限する(TOT)	40
ロックする	15
ロックの対象を設定する	41

定 格

■一般定格

送受信可能周波数範囲	: 送受信周波数範囲 50~54MHz、144~146MHz、430~440MHz
	: 受信周波数範囲 0.5~1.8MHz、1.8~16MHz、76~88MHz、TV 1~62ch
送受信周波数ステップ	: 5/10/12.5/15/20/25/50/100kHz
電波形式	: F2、F3
通信方式	: 単信方式
周波数偏差	: $\pm 5\text{ppm}$ 以内($-10^{\circ}\text{C}\sim+60^{\circ}\text{C}$)
アンテナインピーダンス	: 50 Ω
電 源	: 定格 DC7.2V(マイナス接地)
	: 動作可能範囲(電池端子) DC4~9V(マイナス接地)
	: 動作可能範囲(外部電源入力) DC12~16V(マイナス接地)
消費電流	: 受信定格出力時 約150mA
	: 受信スケルチ時 約55mA
	: 受信/バッテリーセーブ時 約25mA(受信1:セーブ5)
	: 電源オフ時 約700 μA
	: 電源オフ(パワーオンタイマー設定)時 約8mA
	: 電源オフ(ディスプレイ表示点灯)時 約20mA
	: 50MHz帯送信時(5W) 約1.6A
	: 144MHz帯送信時(5W) 約1.7A
	: 430MHz帯送信時(4.5W) 約1.9A
使用温度範囲	: $-20^{\circ}\text{C}\sim+60^{\circ}\text{C}$
ケース寸法	: 幅58×高さ87×奥行き28mm(突起物を含まない)
	: 幅61×高さ103.5×奥行き33mm(突起物を含む)
本体重量	: 約255g(アンテナ、電池/パックを含む)

■送信部

定格終段入力	: 9.5W(50MHz帯)、10W(144MHz帯)、11.5W(430MHz帯)
送信出力	: 5W(外部電源13.8V入力時)
	: 5W(50/144MHz帯、2.5/1.0/0.3W切り替え可能、DC7.2V入力)
	: 4.5W(430MHz帯、2.5/1.0/0.3W切り替え可能、DC7.2V入力)
変調方式	: リアクトランス変調
最大周波数偏移	: $\pm 5\text{kHz}$ (IDCおよびスプラッタフィルター付き)
占有周波数帯域	: 16kHz以内
不要輻射強度	: 1mWかつ60dB以下
マイクロホンインピーダンス	: 2k Ω (エレクトレットコンデンサ型)

■受信部

受信方式	: ダブルコンバージョンスーパーヘテロダイン
中間周波数	: NFM時 第一IF周波数47.25MHz、第二IF周波数450kHz
	: WFM時 第一IF周波数45.8MHz、第二IF周波数10.7MHz
受信感度	: 0.5~1.8MHz/1.8~16MHz(AM) 0.5 μV (-6dB μ) @10dB SN
	: 76~88MHz/TV 1~12ch(WFM) 0.9 μV (-1dB μ) @12dB SINAD
	: TV 13~62ch(WFM) (540~640MHzを除く) 3 μV (+10dB μ) @12dB SINAD
	: 50~54MHz/144~146MHz 0.16 μV (-16dB μ) @12dB SINAD
	: 430~440MHz 0.18 μV (-15dB μ) @12dB SINAD
通過帯域幅	: 15kHz以上/-6dB
選択度	: 35kHz以下/-60dB
低周波定格出力	: 400mW以上(8 Ω 、THD10%)
低周波出力インピーダンス	: 8 Ω
副次的に発する電波等の強度	: 4000 μW 以下(-54dBm)

(測定法はJAJAで定めた測定法によります。定格値は常温・常圧時の値です。)

キー操作早見表

キー	直接押し	ホールドモード (1秒以上押す)	ファンクションモード (“F”表示時)	書き込みモード (“W”表示時)
PTT	送信	←	一時ハイパワー送信	送信周波数の書き込み指定
MON	スケルチオフ	←	リバース	スケルチオフ
LAMP	照明点灯	照明連続点灯	スベアナ オン/オフ	スマートサーチ モード
PWR	—	電源 オン/オフ	—	—
1	1を入力	サブ周波数表示 オン/オフ	トーンスケルチ /DCS選択	メモリーグループ 1へ登録
2	2を入力	タグ表示 オン/オフ	DCSコード設定 トーン周波数設定	メモリーグループ 2へ登録
3	3を入力	電源・電圧表示 オン/オフ	DTMFメモリー 送出オン/オフ	メモリーグループ 3へ登録
4	4を入力	倍角表示/詳細 情報表示切り替え	メモリーグループ の呼び出し	メモリーグループ 4へ登録
5	5を入力	アイコン表示/文 字表示切り替え	APO オン/オフ	メモリーグループ 5へ登録
6	6を入力	電源オン・送信時間 表示オン/オフ	レピーターシフト 方向の設定	電源オン・送信 時間のクリア
7	7を入力	温度表示 オン/オフ	ステップ幅の設定	—
8	8を入力	気圧表示 オン/オフ	TV専用チャンネル の呼び出し	—
9	9を入力	高度表示 オン/オフ	ビーブ音 オン/オフ	—
0	0を入力	—	スケルチレベル の設定	—
MR	メモリーモード へ移行*1	メモリスキャン 開始	スキップメモリー /指定メモリーの設定	メモリーの 消去/復活
VFO	VFOモード へ移行*2	VFOスキャン開始	デュアルレシーブ オン/オフ*3	メモリーから VFOへの転送
F/W	ファンクション モードへ移行	書き込みモード へ移行	ファンクション モード解除	メモリーの 書き込み完了
BAND	バンド 切り替え	ARTS オン/オフ	セットモード	プライオリティ メモリーの設定
HM/RV	ホームチャンネル 呼び出し	エマージェンシー オン/オフ	リバース オン/オフ	ホームチャンネルの 書き込み完了
TX P0	送信出力 切り替え	—	ロック オン/オフ	—

*1 メモリーモード時に押すとメモリーチューンモードになり、一時的に周波数を変更できます。

*2 VFOモード時に押すと、VFOaとVFObを入れ替えます。

*3 1秒以上押すと、VFOaとVFObを交互に受信します。



© 2003 株式会社バーテックススタンダード

無断転載・複写を禁ず

製造元・株式会社バーテックススタンダード

〒 153-8644 東京都目黒区中目黒 4-8-8



E 1 2 6 9 0 0 0 9